

やまど



春の塗装作業後のベルクハイム

第39号 目次

1	会長挨拶	22期	黒崎敏男
2	OB会活動報告		
	東海支部	17期	渡邊和文
	近畿支部	21期	竹本 彰
	2024 小屋作業	11期	加藤忠好
		22期	黒崎敏男
3	現役より	67期	濱本倫太郎
4	投稿のページ		
	伊豆諸島八丈島の旅	8期	篠島益夫
	シニアを魅了するアルプス山行(17年間)	9期	鍋島 武
	いちご会(11期会) 春の部	11期	加藤忠好
	秋の部	11期	窪田安英
	近年の外国での記憶からーオマーン	11期	長岡正利
	白山南竜 2024	15期	上馬康生
	今年も 15 期会 古都大津にて	15期	三宅 毅
	能登半島地震のあった 2024 年	15期	舟田節子
5	会計担当から	23期	小久保光将
6	編集後記	24期	仲村正一

表紙のことば

春の作業には現役生が12名も参加してくれたので、屋根の塗装、床板の張り替え、溝堀り、ホース補修など多くの作業ができました。これを機会に往年の賑わいが戻ってくることを願っています。 22期 黒崎敏男

<会長挨拶>

昨年度開催された創立65周年記念総会において決議頂いた趣旨に沿いまして、今回発行の「やまざと」から体裁を大幅に変更して会員の皆さまにお届けさせていただきます。

事務局の手作りであった労作の時代から長年にわたり数十ページの冊子形式でお届けし、会員の皆様から親しまれてきた会報「やまざと」ですが、会費収入の減少等今後の運営を考慮せざるを得なかった次第です。何卒、事情ご勘案のほどお願い申し上げます。

新年の能登半島地震では能登を中心に甚大な被害がおき、被災者となられた会員もおられました。義援金などの対応もさせて頂きましたが、秋の豪雨も重なって復興への道は険しく、皆様におかれては未だ不自由な生活を送っておられる多くの県民に思いを寄せてくださいますよう。

一方、新型コロナ安定化に伴い、自粛されていた各支部での活動も再開され、記事のように会員の皆様におかれてもそれぞれ活発に動いておられます。更なる活動を期待しています。

今年は昭和39年（1964年）に初代ベルクハイムが完成して60周年。小屋の創設及びこれまでの改修、維持に携わられました多くの皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。

現役の活動力も徐々に回復しており、かつてのような規模ではないとしても自分たちの力量を高めるべく懸命に努力しておりますので今後も変わらぬご支援よろしくお願い申し上げます。

東海支部 「堂山PW」報告記

(報告者 21期 竹本 彰)

時：2023年10月28日(土)

メンバー：L. 竹本(21)、柴田夫妻(13)、安井(22)、

集合場所を大高駅にし、新名神の田上インターで下り、15分程で登山口付近の路肩に車を停めます。

行程：駐車場所発9:00⇒道路⇒登山口9:20⇒鎧ダム着9:50⇒堂山頂上10:55着 頂上発11:40⇒天神川を渡って道路着12:30⇒道路⇒駐車場所着12:40

まず、木曽三川の分流で有名なオランダ人デレーケが造ったという鎧堰堤。今まで見たことのない階段状の堰堤で端から中央の辺りまで両側に手すりがある道が作ってあり展望台になっています。

ここを過ぎて、堆積した砂地の平地が現れ、背の低い松が点々と生えていてまるで庭園のようでした。

堂山へ近づくと花崗岩が風化してザレている道を歩きます。ピークからは琵琶湖や近江大橋、三上山も見えました。ここで昼食。下ってきて河原を横切ると、駐車した道に戻ってきました。3時間程の行程ですが、手軽で良い山でした。



堂山頂上 2023年10月28日

「東山公園の紅葉PW」報告記

(報告者 17期 渡邊 和文)

時：2023年11月21日(火)

メンバー：L. 渡邊(17)、森島(4)、中野(8)、

柴田訓子(13)、竹本(21)、安井(22)

地下鉄八事駅に10時集合。マルシェで賑わう興正寺の境内を通り、天白溪に向かう。ここは雑木林の中に湿地や小川がありホッとします。次に閑静な住宅街にある川端邸に到着。自家栽培の里芋たっぷりの芋煮をいただく。しばらく雑木林の中を進み、東山植物園に入

る。緩やかな丘陵を登り、展望休憩所に到着。13時解散。都会に残る緑豊かなコースを楽しみました。

「忘年会」報告記

(報告者 17期 渡邊 和文)

時：2023年12月3日(日)

メンバー：中野(8)、窪田(11)、森川(11)、野村(12)、柴田夫妻(13)、祖父江(15)、川端(16)、小島(17)、渡邊(17)、竹本(21)、加藤(21)、安井(22)、
会場：名古屋駅前 ももんじ屋じじ

コロナ禍で3年ぶりに集まることができました。大いに食べ飲み語り楽しいひと時を過ごしました。

「中野ミカン山PW」報告記

(報告者 17期 渡邊 和文)

時：2024年3月27日(水)

メンバー：L. 中野(8)、野村(12)、柴田夫妻(13)、川端夫妻(16)、渡邊(17)

11時、名鉄上野間駅前に車で集合。中野さんのみかん山に向かう。たわわに実った大量の甘夏を脚立に登り、腕を伸ばして全て収穫。お茶を用意していただき、持参の弁当で昼食。

食後、車で知多半島第二の標高(125m)の富士ヶ峰に向かう。うらかな春の陽を浴びながら、頂上から見たのは、以前PWで訪ねた神島、志摩半島、鈴鹿山脈、能郷白山、白山、御嶽山、中央アルプス、恵那山、三ヶ根山、渥美半島。眺めを堪能して14時半解散。中野さんのお陰で素晴らしい春の一日を過ごせました。

「カキツバタPW」報告記

(報告者 17期 渡邊 和文)

時：2024年5月8日(水)

メンバー：L. 竹本(21)、森島(4)、中野(8)、野村(12)、柴田訓子(13)、渡邊(17)、益川(26)

名鉄三河知立駅に9時半集合。愛知用水の上に設けられた緑道を進み、さむらい塚(今川勢に敗れた今崎城の織田勢の墓)、東海道の一里塚(道の両側に塚がある珍しいもの)などを訪れた後、東海道沿いの竹本邸のテラスでコーヒーとお菓子をいただきました。

のどかな田園の中を進み、日吉神社、無量寿寺に続くかきつばた園で、杜若を眺めながら昼食。目も腹も満たされて三河八橋駅まで歩き、13時半解散。満足のPWでした。

近畿支部活動報告（2023年秋以降）

名前に添字のある方は女性、○は期です。

2023 10/30(月)	君影RGと妙号岩Pw（企画 高村c、加藤s）参加者8名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯	
鈴蘭台駅＝陸橋下BS～君影RG～妙号岩～縦走路～鶴越駅＝湊川駅～池長植物研究所跡～中央市場前駅	
2023 11/20(月)	高槻三好山、神峯山寺紅葉Pw（企画 三宅）参加者10名
伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、赤地⑫、高村c⑮、間所m⑮、三宅⑮、井上⑯	
JR 高槻駅＝神峯山寺口BS～神峯山寺～原の登山口～三好山山頂～塚脇橋～芥川宿～JR 高槻駅	
2023 12/20(水)	平城坂Pw（企画 加藤）参加者6名
篠島⑧、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑮、三宅⑮、井上⑯	
近鉄奈良駅～天極堂・押上BS＝般若寺～空海寺～二月堂茶所～開山堂～南大門～奈良博物館(解散)	
2024 1/31(水)	かしはら水仙郷と高尾山Pw（企画 三宅）参加者9名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、森川⑪、野村⑫、宇野⑮、宇野a⑮、三宅⑮、井上⑯	
JR 柏原駅～鐸比古鐸比賣神社～登山口～夫婦岩～水仙群生地～高尾山～展望地～登山口～JR 柏原駅	
2024 2/16(金)	甘南備山と一休寺Pw（企画 加藤）参加者11名 2/15(木)を雨天延期
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、野村⑫、宇野a⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯ 一休寺バ:高田⑩	
JR 松井山手駅～コープ京田辺～野外活動センター～甘南備山～薪神社～一休寺～JR 京田辺駅	
	
2024 4/5(金)	明石城・花見Pw（企画 宇野）参加者7名 3/28(木)を雨天延期
伊豫⑧、黒崎⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、宇野⑮、鈴木⑮、三宅⑮	
JR 明石駅～明石城三ノ丸～本松寺～子午線標示柱～明石城・剛ノ池～天守台～JR 明石駅	
2024 4/25(木)	京都・当尾の石仏めぐりPw（企画 三宅）参加者11名
伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、野村⑫、宇野⑮、宇野a⑮、鈴木⑮、三宅⑮、井上⑯	
JR 加茂駅＝(バス)＝岩船寺～貝吹岩～わらい仏～浄瑠璃寺～大門仏谷石仏～山の家BS＝JR 加茂駅	
2024 5/17(金)	六甲・シェール道Pw（企画 加藤）参加者9名
伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮	
神鉄：北鈴蘭台駅＝(送迎バス)＝森林植物園～東門～桜谷～(シェール道)～穂高湖(一旦解散)＝摩耶山＝山麓駅	
2024 6/13(木)	武庫川廃線跡Pw（企画 井上、加藤）参加者5名
加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑮、三宅⑮、井上⑯	
JR 武田尾駅～(武庫川廃線跡)～武庫川水管橋～西宝橋～JR 生瀬駅～浄橋寺～宝塚水管橋～宝塚駅	
2024 10/9(水)	古知谷阿弥陀寺Pw（企画 加藤）参加者9名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、野村⑫、宇野a⑮、三宅⑮、井上⑯	
京都地下鉄：国際会館駅前BS＝(京都バス)＝大原BS～古知谷～阿弥陀寺(往復)	
 	

7～9月の休業期間を除き、好天に恵まれ毎月実施という近畿支部にとって珍しい1年でした。

君影ロックガーデンと妙号岩 Pw

・実施日 2023 10/30(月) 報告 加藤 (11 期)

「あそこが君影ロックガーデン(RG)で…」。
このPwの前年のこと、菊水山Pwを企画してくれた高村さんから初めてその地名を聞いた。「君影」を冠した名前だったので、私にとってある意味でなおさら新鮮に思えた。



小学生の遠足地『君影ロックガーデン』

六甲山を横断する登り下りが急な登山電車のような神戸電鉄。そのほぼ上り詰めた標高 約 300m の位置に鈴蘭台駅がある。開通当時は小部駅だったそうである。六甲山の裏側には古代から開けた山田村がある。そこから尻尾のように谷を上り詰め少し開けたところに小部の集落がある。山田村の本体から見れば「尾部」のような場所である。

ところが、神戸が大会になるにつれ、避暑地として発展、S 7 年には鈴蘭台駅と改称。ここがスズランの自生地でも何でもないので、その涼しさのイメージだけでつけられた駅名という。さらに平地の少ない神戸の住宅地がここで爆発的に発展し鈴蘭台の大住宅地ができた。その後、住宅地が山上まで発展し、名に窮したのか「君影」名が使われている。君影草は鈴蘭の別名なのだ。

元々本年6月の企画であつたが雨で中止、秋の企画となった。企画者は高村 c & 加藤 s の女性コンビである。企画に際し、当初は鈴蘭台駅から起伏のある住宅地を登る計画だったが、その奥の秘境？妙号岩のてっぺんまで行く道を見下ろし確認、しかも展望はこちらの方が優れているので、住宅地の登りはバス、それはバスで代用し、余った時間で妙号岩にも立ち寄る計画へと変更したのだ。

秋晴れの当日、集合場所の駅改札口には定刻前にも拘わらず、買い物もトイレも済ませた全員が

集合した。バス乗り場に移動後 10 時 5 分のバスに無事乗車することができた。約 10 分の乗車で有難くも今日の最高地点近くに着いた。陸橋のあとトンネルを抜けるなど変化のある住宅地をやや登りきるとそこがイガヤ谷東尾根登山口であつた。

登山口なのに道をやや下る。いきなり山中だ。二重稜線で道の選択が少しややこしいが 5 分後には今日唯一の三角点に着き、11 時前に君影 RG に着いた。東向きの稜線が林から岩場になるとそのまま絶壁で落ちている。北の方は鈴蘭台の住宅地、東の方の急峻な崖の上は菊水山だ。

約 10 分の休憩で次の妙号岩に向かう。道を知らなければ元に戻り、もう一方の二重稜線を行けば良いが、下見により巻き道を見つけていたので、巻き道の方を選んだ。稜線道はほぼ平坦な気持ちの良い灌木林の一本道である。30 分弱で妙号岩の分岐、そこから細尾根となる道を約 10 分進み妙号岩に着いた。ここも花崗岩であるが、風化によりできた真砂土が岩の上にたまりと乗っていることが君影 RG と違う。しかも、てっぺんは狭く、かつ、垂直に下の谷まで見通せるので、高所恐怖症の人は必ずやビビる場所であろう。1 年前に向かいの菊水山に登り、下の谷を歩いた我々であるので、歩いた道や休憩した石井ダムなどが眼下に見え懐かしい。南は遠く神戸の港まで見える。ダムと並行する鉄橋を神鉄の電車がジオラマのように渡っていく。ここが昼食の場所なのだ。

井上さんがカボチャを使ったドイツパンを持ってきたてくれた。自家製である。さすがのドイツパン、それだけで腹にどっしり来た。いろんなザックからいろんな菓子が出てきた。それらを賞味した。1 時間も滞在しただろうか。



『妙号岩』のてっぺんにて、下は石井ダム

妙号岩を過ぎると後は下るだけ、しかしここからは水平な道が続き、最後にいきなり約 200m の

急坂を下る。最後の笹地には少し手こずった。こんなところで六甲の南面が断層地帯であることを実感できるのだ。最後には菊水山と須磨アルプスをつなぐ六甲全山縦走路に出た。神鉄鶴越駅の少し手前にある小公園では、伊豫さんが淹れるコーヒをいただき、今日の山歩きの部は終わった。

後半は神戸の街歩きである。NHKの「らんまん」はあくまでもドラマでのお話、実は書籍購入や植物採取旅行のため借金王になってしまった牧野富太郎、若き神戸の資産家であり京大の学生であった池長孟(パング)の助けがなければ、あの歴大な数の標本は散逸の運命にあった。しかも池長は牧野のために神戸に植物研究所まで準備したのだ。それでも池長にとっては、牧野による植物標本館が出来れば、当時、文化施設に浴せなかった神戸市民への貢献になるとの思惑もあった。しかし、池長と牧野の価値観の違いから、一度も市民に植物標本が展示されることなく二人の関係は悪化した。結果的には、標本が神戸で保管されていたので関東大震災で焼失することもなかったし、最後には池長は標本のすべてと研究所で購入した書籍を牧野に寄贈することで和解したのだ。



『植物研究所跡』（現在は会下山公園）

今回はその植物研究所跡に立ち寄り、最後に神戸港の基礎となった兵庫津の史跡をいくつか回った。かなり欲張りな計画であったが、天候にも恵まれ良く歩き17時半頃解散した。

高槻三好山、神峯山寺紅葉Pw

・実施日 2023 11/20(月) 報告 三宅 (15期)

「三好山 (182m)」は大阪府高槻市を南北に縦断する芥川の中上流域に位置し山頂からは眼下に摂津峡公園、遠く生駒山から大阪市内まで大阪平野が一望出来ます。戦国時代、この天然の要害を利用し「芥川山城」が築かれ、時の天下人「三好長慶」が政権を執っていました。現在も土塁や曲

輪(くるわ)、石垣があり当時をしのばせます。芥川山城は織田信長の攻撃により落城しますがその後入城し、都の新しい支配者となったことを天下に知らしめるため天皇の使いを迎えたり、畿内の要人と対面したそうです。そのシーンは大河ドラマ「麒麟がくる」で放映されました。



『神峯山寺』の山門

「神峯山寺 (かぶさんじ)」は三好山のさらに北部にある寺院で697年に開山された古刹です。日本で最初に毘沙門天が安置された霊場として三体の毘沙門天が本尊として祀られています。自然豊かな山に囲まれ春は新緑、秋は紅葉の名所です。

今回のPWではJR高槻駅を出発し最初に「神峯山寺」を参拝。その後「三好山」に登り下山。芥川沿いの遊歩道を歩きJR高槻駅に戻るコースにしました。

JR高槻駅に10時集合。福井から間所mさんが参加で総勢10名。高槻駅からバスに乗車20分神峯山寺口バス停下車。緩い参道を歩20分で神峯山寺到着。仁王門をくぐり見頃となった紅葉の参道を歩き本堂にて参拝。境内の観音堂、開山堂などがいっぱい紅葉に覆われ美しい。鐘楼堂で思いっきり鐘をつき御朱印をもらった後、境内を出て「ポンポン山」への山道を5分程上り紅葉に囲まれた広場へ移動し昼食。この時突然Iさんが切り株につまずき転倒するハプニング。メガネが傷んだものの大事に至らなくて本当に良かったです。



神峯山寺うらの公園（紅葉が見事だった）

昼食後、高槻市原地区ののどかな農道を40分程

歩き三好山登山口へ。ここから緩やかな 30 分の登りで三好山山頂。主郭があった山頂は広く三好長慶を祀った祠があります。恒例の大中小ゲームをして記念撮影。



『三好城』本丸横（展望良好）

天気も良く南に広がる大阪平野。その背後に壁のようにつながる生駒山、金剛・葛城山の雄大な景色を楽しみました。多くの土塁、曲輪を見ながら下山。途中で高さ 2 メートル以上もある石垣を見ました。三好山山頂から下山 30 分で芥川に架かる塚脇橋。ここから淀川に向かって流れる芥川沿いの遊歩道を 40 分程賑やかに喋りながら歩きました。先頭に行く女性若手 3 人衆が余りに早く歩くのでついて行くのに苦労された方もおられたようです。途中カワセミにも出会えて良かったです。

「西国街道」に合流し「芥川宿水門跡」を見学。ここは江戸時代の宿場町「芥川宿」の西口にあって芥川の増水時には止水板をはめて宿場への浸水を防ぐのですが、その際の止水版のはめ方の解説を加藤氏から聞きました。「高槻まちかど遺産」となっているそうです。次に「西国街道」を東に少し歩くと「芥川一里塚」があります。小さな祠があり後ろには榎の木が植えられています。ここで Pw 最後の集合写真を撮って JR 高槻駅へ向かい 5 分程で到着し 16 時 30 分解散しました。

天気も良く、紅葉も見頃で良かったのですが、芥川沿い遊歩道が少々長かった様でした。

平城坂 Pw

・実施日 2023 12/20(水) 報告 加藤 (11 期)

本当は「奈良坂」なんだろうけど「平城山」の歌の雰囲気をも Pw に付与したくてこの名称を使った。近畿での冬は歩くのには良い季節。場所は超有名な東大寺の周辺。が、有名な点と点の間の意外と知られていない場所を歩き、季節外れで観光客の比較的小さい隙間を見て歩く企画とした。

また、ほぼ昼近くの食事から始まる Pw というのも珍しいだろう。

トイレなどを済ませ、近鉄の奈良駅を出発したのが 10 時 20 分。吉野葛で有名な「天極堂奈良本店」での軽食をという魂胆だからこの時間で充分なのだ。駅から才媛が通う奈良女子大に続く小路に入り、文化会館の裏から西大門跡付近に出る。東大寺には創建当時、平城京に面する形で西大門があったという。天正時代に倒壊し、以降再建されなかったとのこと。ただし、その扁額は奈良博に保管されているという。天極堂はその西大門跡地にあるというのもこの Pw にとって嬉しい。

駅から約 15 分で西大門跡に到着。やはりこの時間が正解。すぐに着座できたからである。天極堂の名物は葛餅であるが、他に目がくらみ「葛切りぜんざい」「うどんセット」「茶粥セット」を食った者もいる。食意地の某は、それでもやはり葛餅は外せないとして追加注文してしまったらしい。

大通りはなるべく避ける方針だから、ここからはバスで般若寺に向かった。乗車は 3 分ぐらいだが我々の足ではたつぷり 30 分はかかるだろう。

般若寺は以前と違い南から入るようになっていた。境内に入ると季節はずれのコスモスの花に、驚きの笑みがこぼれた。しかも、今日の境内はほぼ貸し切り状態なのだ。



般若寺の『十三重石塔』を背景に

般若寺の創建は飛鳥時代という。が、平家の南都焼き討ちで焼失、その再建には「叡尊」をはじめとする真言律僧の人々が多く関与している。また、東大寺再建のため宋から渡来した伊派の石工たちもだ。寺内の石造物の主要なものは彼らの手によるものだという。まず、目に入るのが十三重の石塔。高さは約 14m。この時代に作られたこの種の石塔としては宇治の中之島にある塔に次いで日本第 2 の高さを誇る。しかも十三段も重ねて倒壊しないというのは当時としては超高度な技術だったのだ。石仏もたくさんある。石造物を見ていて、私は南北朝に活躍したという叡尊の孫弟子に

あたる「文観」を思っていた。

さらに本堂に入ってアッと声を上げた。文観が作らせたという本尊の文殊菩薩像が目の前にあったからである。触れるくらいに近い。後醍醐天皇の護持僧であった文観は当时空海の再来とまでいわれ、当時の多くの美術に関与しているといわれている。いちど見たいと思っていたからである。期待以上だったのに、じっくりと見たはずなのにどのような像だったか記憶が飛んでいる。



高級ホテルに改装中の旧『奈良少年刑務所』

般若寺から至近の旧奈良監獄へ。近々ホテルに転用とかで工事中だった。金沢監獄と共に近代的な監獄として作られただけに素敵な建物である。

佐保川を渡り、なおも裏道で東大寺へ。途中で空海ゆかりの空海寺に立ち寄る。空海が東大寺別当だったことがあることすら知らなかった。この寺の本尊は弘法作の穴地蔵であるが60年に一度公開というのでご朱印だけいただいてきた。本堂前の地蔵像も素晴らしく元矢田寺にあった由。

正倉院横の道は通じてないので、山際の道へ。大仏殿が見え、なおも歩き、ここが良いと、伊豫喫茶店が開店準備を始めたら鹿が寄ってきた。これは客ではないと慌てて閉店し、二月堂への階段へと急いだ。階段の最上部で左側の「茶所」へ。



東大寺の『茶所』でくつろぐ旅人

ここは参拝者の無料休憩所である。木造の大き

な建物、江戸時代に旅しているような錯覚さえ覚えた。東大寺の中に、「茶所」があるのを知らない人が多いだろう。セルフサービスであるが、茶碗があり、いつも湯が沸いている。今は特に有難い季節。奥にはトイレもある。壁には修二会で使った大松明が展示、係員に聞けば、伊豫喫茶もここではOK。井上さん特製のシュートレーンが絶品だった。みんなのザックからも菓子が(笑)。何か落ち着く感じでここに約40分も居たのだろうか。

二月堂で展望を楽しみ、三月堂の前に建つ伊派の手になる灯籠をじっくりと眺め、「開山堂」「行基堂」「俊乗堂」「辛国社」を急ぎ足で回り「南大門」へ。南大門では伊派による「石造」を鑑賞。表側の金剛力士像は見ているのに、裏側にこんながあると気が付く人は殆どいないだろう。それにしても不釣り合いに小さな不思議な像である。

奈良公園の奈良博に着いたのが16時半。予定より大幅に遅くなったのでここで解散とした。

かしはら水仙郷と高尾山Pw

・実施日 2024 1/31(水) 報告 三宅 (15期)



『鐺比古鐺比賣(スガヒコスガヒメ)神社』の鳥居

「大阪府柏原市(かしわらし)」は大阪平野の東部に位置し、市域の北側にそびえる生駒山系を越えると奈良県になります。ぶどう栽培が盛んで丘陵地の多くはブドウ畑となっており「河内ワイン」が有名です。また、古墳や遺跡も多くあります。生駒山系の最南端にあるのが「高尾山(278m)」です。高尾山(たかおやま)の山麓から山頂一帯が「高尾山創造の森」です。地元住民と柏原市、大阪府が協力して整備した公園で遊歩道や展望台など良く整備されており「かしわら水仙郷」があります。

今回のPwではJR大和路線(関西本線)柏原駅を出発し最初に「鐺比古鐺比賣神社」を参拝。その後「高尾山創造の森・森林浴コース」を歩き「かし

わら水仙郷」を見学。「高尾山」に登り JR 柏原駅に戻るコースにしました。

JR 柏原駅 10 時半出発。桑名から森川さん、名古屋から野村さんが参加で総勢 9 名。柏原駅前の繁華街、近鉄堅下駅前を通り 20 分で「鐺比古鐺比賣神社」の大鳥居。見上げるとこれから行く「夫婦岩」が小さく見えます。かなり長い石段を上り社殿へ。結構ハードでした。祭神の「鐺比古命」は「垂仁天皇」の御子とされており 151 年に創建されたそうです。神社からは柏原市の街並みがよく見えました。



水仙浴を楽しむ：『かしはら水仙郷』

神社の横から高尾山創造の森の遊歩道に入り 10 分ほど登り昼食。ベンチもあり水仙が咲いていて展望も良い。ここで小雨が降ってきたがすぐに止まりました。今日の天気は曇り一時雨。ここから「たにごえの道」を進み 5 分程で「夫婦岩」。高さ 3 メートル、幅 5 メートル位はあるのでしょうか。上り下りの道を 25 分で「かしはら水仙郷」に到着。ちょうど見頃。ゆるい斜面を埋め尽くすように咲いています。鑑賞路をみんなで並んで歩いていると突然 I さんが転倒。水仙の中に仰向けに埋まってしまいました。皆さん笑いをこらえるのが大変そうでした。怪我も無くて良かったです。水仙の花に埋もれた顔を撮影している方もいました。遺影写真にするそうです。たつぷりと花と香りを楽しみました。水仙郷から急な登りを 20 分で「高尾山」頂上に到着。途中で洞窟になった遺跡がありました。「高尾山山頂遺跡」と呼ばれており弥生時代から古墳時代初期のものだそうです。頂上付近は大きな岩盤が露出していて山頂直下の急峻な岸壁はでスリル満点です。



『高尾山』山頂でのお茶会

岸壁には鐺比古鐺比賣神社奥社の祠が祀られています。眼下には一級河川「大和川」が流れ柏原市、八尾市から大阪平野が一望出来ました。山頂の岩盤

の上で久しぶりのお茶会をしました。森川さんのお点前と皆さん差し入れのお菓子をいただきながら、一時間たつぷり会話を楽しみました。

山頂を 14 時半に出発し「南パノラマ展望台」に向かう。途中道を間違えましたが無事 20 分程で到着。最後の集合写真をたつぷり時間かけて撮影。加藤さんこだわりの撮影方法です。水仙の咲く下りの歩道を鐺比古鐺比賣神社にむけて気分よく降りて行くのですが何人かが滑って尻もちをついたりつきそうになったりしました。道が濡れている為なのか少し高齢になった為なのでしょう。15 時 40 分登山口鐺比古鐺比賣神社に無事到着し JR 柏原駅に向かう。駅前でちょっと新年会でもしようかという事になり店を探しましたが見つからず残念ながら 16 時解散になりました。

令和 6 年新年初めての Pw は満開の水仙の花と香りを満喫しました。あいにく天気は曇りで時々小雨でしたが高尾山頂では雨にも濡れずにお茶会も出来ました。メンバーの一部からは山頂までの距離が 500 メートルに対し標高差が 250 メートルあるので登りがきつかったとの感想もありました。転倒や尻もちもありましたがみんな笑い事ですんで良かったです。

甘南備山と一休寺 Pw

・実施日 2024 2/16(金) 報告 加藤 (11 期)

過去の Pw で登った御室や嵯峨野の低山は、京都市街を眺めるのに絶好の展望台である。そこから南に目をやると南の方に山々が連なっている。どんな山があるのだろう。地図で調べると生駒山系の北辺に甘南備(かたび)山を見つけた。標高も約 200m、山名の響きが実に心地よい。もっと調べると平安京の中央・朱雀大路の北は船岡山を基準にしたのは有名であるが、南はこの甘南備山を使ったらいい。それと知ると俄然登りたくなった。単に一般登山道の往復だけでは面白くない。いろいろ検索すると、地理院の地図には記載されていない山道があることがわかった。どうやら JR 松井山手駅から JR 京田辺へ抜けるコースが設定できそうだ。京田辺側には頓智の一休さんゆかりの一休寺もある。あの食べ物に「善哉」の名を使ったのも一休さんとある。食いしん坊の私はなおさら行きたくなった。山に慣れたワグネル OB だから、下見なしでもなんとか歩いてくれるだろう。

しばらく音信不通だった高田さん宅も近くにある。そう思って電話すると「山は無理、一休寺へは車で行くわ。」との返事。さらに当初の実施日であった2月15日は天気が悪く思わしくないので、天気予報にしたがい、翌16日を実施日と決めた。



地形図に記載されていない怪しげな道を歩く

JR 松井山手駅に9名全員集合、野村さんは名古屋からの参加だ。集合時刻の10時にはすでに歩き始めていた。東西の大通りを西に約1km進みコープでトイレを済ませ、そこから南下し山へ向かう。山に造成した住宅地を調子に乗って歩くと、急に下りにさしかかった。おかしいと思い地図を見ると、住宅地に新しくつけられた道に騙されたようだ。少し戻り、予定の道に入った。正しい道は予想以上に細い。この迷いで約100mロスしたが、下見なしでの計画なのでメンバーも寛容だ。

京田辺市の野外活動センターを過ぎると、地形図の車道とは違い溝状の道になってきた。低山ではよくあることだ。さらに道が細くなってきて地形図でも登山道すら記載されない地点に着いた。山道はある。事前に調査し地図に書き込んだルート通りか確認しながら歩いた。こんな時は高圧鉄塔が結構に役に立つ。道はゴルフ場の柵の外側にしっかりとつけられていた。地元の人には良く知られた道なのだろう。そうこうしているとようやく甘南備山の東の登山口に達した。ここからは地形図上でも登山道が記載されているので安心だ。



『甘南備(雌山)山頂』

登山口からはやや急な道もあったが、あまり汗をかくことなく三角点のある雌山へ正午に着いた。昼食は展望を優先したが、それが逆に仇となった。展望の良い分だけ猛烈な風が我々を襲い、寒い目に遭ってしまった。日差しは暖かいが、二月の低山でもまだまだ冬なのだ。

地図上で雌山と雄山はほぼ平坦かつ至近距離と予想していたが、思ったより下り上りがあり、思ったより離れていた。それでも25分程度で雄山に着いた。山頂は小灌木が生えていて展望が良くない。直下に甘南備の小社があった。北に少し下ると京都方面が良く見える展望台があった。目を凝らすと京都タワーが見えた。ここから登山道と車道で北登山口でもある芝生公園まで約20分で降りてきた。トイレ休憩時に伊豫コーヒ店が開業、しかも店主がでっかい栗羊羹を持参。もちろん「大中小」に興じたのは言うまでもない。



『一休寺』の門前で

公園からはほぼ平坦な下り、中景に高速道路はあるがのんびりとした田舎の風景の中を歩いた。途中で高田さんから携帯電話。すでに一休寺に来ているとのこと。こちらの現在地を知らせ、寺に居るなら、人数分の善哉の用意をしてくれるように頼んだ。私の1年の時の夏合宿の時の先輩、今では優しい先輩に変貌している。

薪(タギ)神社に、無事下山した旨を報告し、一休寺には14時20分に着いた。高田さんが出迎えてくれている。本当に久しぶりの再会だ。

一休寺は正式には「酬恩庵」という。鎌倉時代創建の妙勝寺を前身としながらも荒廃、一休禅師が再興し、また、現在の伽藍の多くは第3代加賀藩主前田利常の寄進により再建された。

門をくぐり庫裏の玄関で靴を脱ぐと、庫裏の部屋に通された。漆黒のお椀に入った善哉をいただきほっこりする。これで山から下りてきた気分か

ら日常に切り替わった。方丈の廊下から三方向(南東西)の趣の異なる方丈庭園をゆっくりと眺めた。この時期の平日の遅い午後、ほぼ貸し切り状態だから足を伸ばしのんびりできる。さらに靴を履き本堂、開山堂やそのあたりの庭を思い思いに歩いた。二月なのに苔が綺麗だった。京都の市街地から随分と離れているが、不思議と京都を感じた。こんなに静かで良いところもあるのかとも。一休禪師はここを再興してから、死ぬまでここで過ごし、大徳寺の住持となつてからもこの酬恩庵から通つたという。さもありなんである。

最後に、門前近くと隣の駐車場で記念写真を撮った。背景には梅の花が咲いていた。

高田さんと別れ、我々はJR京田辺の駅まで地図を見ながら裏道を選んで歩いた。駅までは約25分だった。寺の庭で掃除をしていた小僧時代の一休さんの銅像が、駅前にまで見送りに来ていた。

JR京田辺駅16時半に解散した。

明石城・花見Pw

・実施日 2024 4/5(金) 報告 宇野 (15期)

桜100選の明石城で花見を目的で企画しました。暖冬ながら桜の開花が遅れ、やっと8分咲きの予報が出たときの実施となりました。

明石といえば、明石タコ、明石鯛、明石焼きなど食べ物を思い浮かべる人がほとんどだと思います。明石にお城が有ったの？という人もいます。学校で習った東経135度子午線が明石を通っていることを、あ！そうか、と思い出す人もいるでしょう。よって、今回の計画は、花見のおまけに明石の歴史をたどる旅としました。



『明石城天守台』にて(後ろに見えるのは坤櫓)

まずは明石城からあるきます。ここで質問！！
問い “石垣の左右に櫓が非対称にそびえています
が、天守閣がありません。なぜでしょう？”

答え “天守閣は元々造られませんでした。理由は時代背景にあります。” また、明石城下の町割り(設計)をしたのは、かの有名な「宮本武蔵」です。「へー知らなかったー！」です。 武蔵が造った庭園はお城の中や「時の道」の途中にあります。



『剛ノ池』の桜並木

「明石城」からは「時の道」を辿り、「明石立天文科学館(明石天文台)」まで往復しました。

(「時の道」は次の①～⑬順で歩きました。)

- ① 明石公園の「とき打ち太鼓」を皮切りに
- ② 武蔵の「庭園」・・・お城を出て
- ③ 「上の丸弥生公園」(明石原人も住んでいました)
- ④ 「明石神社」(とき打太鼓の本物)
- ⑤ 「大聖寺」
- ⑥ 「明石上ノ丸教会」(日本では珍しく
日時計が建物の正面に付いている)
- ⑦ 「妙見社」(武将「嶋左近」ゆかりの寺)
- ⑧ 「本松寺」(宮本武蔵の枯山水)
(なぜか? 「ジャイアント馬場夫婦」のお墓)
- ⑨ 「亀の水」(播磨三名水の湧き水)
: ペットボトルを持って人が来る
- ⑩ 「雲晴寺」
(南総里見八犬伝のモデルとなった里見忠義公の
供養塔、宮本武蔵の庭、武蔵の孫弟子の墓石).....
そして
- ⑪ 「日本標準時子午線標示柱(トンボの標識)」
(近所に「松本零士」が住んでいて、いつも星を眺
めていたそうー>「銀河鉄道999」を発想する)
- ⑫ 「蛸壺塚」(松尾芭蕉の碑)
- ⑬ 「人丸山」 標高: 24.6m 本日の最高峰
- ⑭ 「月照寺」
神仏分離令で柿本神社と分かれる
- ⑮ 「柿本神社」(柿本人麻呂を祀る)
- ⑯ 「明石市立天文科学館」これよりもどる
(65歳以上の明石市民は一般観覧料が無料)
- ⑰ 「長寿院」(明石藩主である松平家の菩提寺)
- ⑱ 明石公園に着きました。

歴史有る明石を堪能した春の一日でした。

京都・当尾の石仏めぐりPw

・実施日 2024 4/25(木) 報告 三宅 (15 期)

木津川市の「当尾(とうの) 地区」は京都府南端、奈良県との境にあります。「浄瑠璃寺」や「岩船寺」などの古寺や鎌倉時代の「石仏」が点在しており「石仏の里」として知られています。鎌倉、室町当時には行きかう人々を優しく見つめてくれる道しるべだったのでしょう。そんな石仏を見ながら、京都府木津川市の「岩船寺」から「浄瑠璃寺」までのんびりと巡るウォーキングを計画しました。

JR 大和路線「加茂駅」に 10 時 15 分集合。名古屋から野村さんが参加で総勢 11 名。

10 時 44 分発の木津川市コミュニティバスに乗り 15 分で「岩船寺」に 11 時到着。「岩船寺」は 729 年聖武天皇が行基に命じて阿弥陀堂を建立させたのが始まりだそうです。山門をくぐると朱色の鮮やかな三重塔が目をはきます。室町時代に建てられたそうです。まずは本尊の重要文化財「阿弥陀如来坐像」(高さ 3m はあるでしょうか) を拝観し、その後本堂の裏山にある「貝吹岩」まで登りました。大きな岩で貝が二枚重なっているように見えました。ここから「ほら貝」を吹いて連絡などをしたそうです。

眼下には山城地域一帯が一望できました。昼食は境内にある広場でしました。ベンチもあって快適でした。私達が境内にいる間、ずっとテレビ局の女性とカメラマンらしき人がお寺の僧侶とインタビューのような事をしていたのが気になりました。後日知ったのですが、NHK のスタッフが 4 月 27 日から特別公開される三重塔の内部壁画紹介の番組撮影に来ていた事がわかりました。



岩船寺の『十三重石塔』と『三重塔』

境内を出てすぐ横にある白山神社(重要文化財)にも参拝し、いよいよ石仏めぐりのスタートです。

岩船寺から緩やかな登りを 10 分ほど歩くと「三体地蔵磨崖仏」に着く。道沿いの岩肌の見上げるよ

うな所に可愛い三體のお地蔵さんが彫られています。次に「ミロクの辻」にある弥勒摩崖仏を見物。風化で見づらいので目を凝らして見ました。山道ですがほぼ下りで手入れされており歩きやすい。

次は「一願不動」(不動明王立像)に向かいます。

「岩船寺奥の院」の修行場で崖の下に彫られている。一心にお願いすると一つだけ願い事を叶えてくれるそうでみんなで合掌。次の石仏に向けて手すりがある長い急な坂を下ると「わらい仏」に着く。

開けた明るい斜面にあって微笑みが可愛い阿弥陀三尊摩崖仏です。当尾を代表する石仏でアイドルだそうです。「わらい仏」のすぐ側に「眠り仏」があります。土の中に半分埋もれていますがあえて掘り起こさないで祀られているそうです。



岩船寺と浄瑠璃寺間にある『わらい仏』

次に歩いて 10 分ほどで「カラスの壺二尊(阿弥陀地藏磨崖仏)」に着きました。正面からは阿弥陀仏しか分かりませんが左側の面に地藏菩薩が彫られていました。一つの岩に面を変えて彫られているものでした。「あたご灯籠」を通りバス停もある車道に出ます。

ここまで来ると「浄瑠璃寺」まではもうすぐです。1 キロもありません。車道の脇のやぶの中に「やぶの中三尊摩崖仏」があります。1262 年の銘とあり当尾の石仏の中で最古の彫刻だそうです。

たくさんの石仏を見て歩いてきましたがここで一旦終わり「浄瑠璃寺」に着きました。計画よりも少し時間がかかったため浄瑠璃寺での滞在時間が 1 時間程度になってしまいました。浄瑠璃寺門でわらび餅など食べる計画だったのですがあきらめました。残念がっている方もおられました。すみません。

「浄瑠璃寺」は国宝の「九体阿弥陀如来像」が有名ですが他にも秘仏「吉祥天立像」(重文)や「薬師如来坐像」(重文)など多くの貴重な仏像が祀られておりゆっくり拝観しました。国宝の「本堂」「三重塔」の前で集合写真を撮り、浄土の池「宝池」を

ぐるっと回って浄瑠璃寺を出ました。



『宝池』と『三重塔(右奥)』

次に向かうのは「首切地蔵」です。なんとも恐ろしい名前ですが、「首が切れているわけではなく首のくびれが深く切れているように見える」とか「近くの処刑場にあったから」とか言われているようです。高さは1 mほど。1262 年作でこれも当尾の石仏の中で最古の石仏です。

5 分ほど歩くと「大門石仏群」。これは近くの竹藪の中や山道にあった石仏を集めて安置しなおしたもので色々な石仏がたくさん置かれていて圧巻でした。

15 分ほど進むと「大門仏谷」(如来形摩崖仏)です。道から谷を隔てた向こうの山肌に見える巨大な摩崖仏はインパクト十分です。幅6mの花崗岩に高さ2.8mの如来坐像が彫られています。

その大きさに驚きました。加藤さんが摩崖仏の直下まで行くと言われるので全員で荒れたわき道を下りました。すぐ下までは行けませんでした。近くから見上げる摩崖仏の大きさは圧巻でした。

行って良かったと！！

元の道まで登り返して最終目的地「加茂山の家バス停」に向け出発。15 分程歩いて 15 時 30 分にのどかな田園地帯にあるバス停に到着しました。バス停ではしばらくお茶やお菓子などを食べてのんびりしました。16 時 11 分発の木津川市コミュニティバスに乗り 25 分「JR 加茂駅」に 16 時 36 分到着解散しました。



大門仏谷の『如来形摩崖仏』

今回のPWは春の穏やかな好天に恵まれた中、たくさんの石仏を眺めながら、のんびりゆっくりと約2時間歩きました。可愛い石仏には心を癒されました。こんなPWもたまにはいいかなと思いました。

六甲・シェール道Pw

・実施日 2024 5/17(金) 報告 加藤 (11 期)

NHK の番組で、足の筋肉は第二の心臓といわれるくらいに大事で、それを鍛えるに坂を登るのが効果的。が、それよりも坂を下の方がさらに効果的・・・というのがあった。コロナ以降どうも心肺機能が低下してきたためか、もう長い登りには自信がない。よって、「下りで良い……」にどんなに勇気づけられたかわからない。



山中のお洒落すぎる『Café』

それではと、適当なコースは？と思案を巡らすと、まず摩耶ケーブルで摩耶山まで登り、そこから布引谷で新神戸駅まで下るか、途中で森林植物園の方へ行き、西鈴蘭台へ行くコースが浮かぶ。

しかし、このコースについては、桜谷出合へ下る徳川道Pwも、シェール道を下るPwも以前に実施した。地形図の等高線をじっくりと眺め、今回はその逆コースを歩くことにした。もちろん登りの緩いシェール道を選んだ。さらに調べると、布引川の源頭近くの穂高湖に三角屋根のお洒落な喫茶店ができていないか。しかも、超きれいなトイレがあるという。これは神の助け。なぜなら我が仲間にはトイレが近い人もいる。この喫茶店を終着地とすれば喜ばれるに相違ない。しかも、ここからバスを使い摩耶山にも六甲ケーブル

に行くことが出来るからである。この企画ならば我が心肺にも喜んでもらえるだろう。

9:45 神鉄・北鈴蘭台駅近くの森林植物園の送迎バス停に9名全員が集まった。バスの出発時刻は10:05であるが、乗客が多くて座れないことがあるので集合を早く設定したのだ。よって無事に座れ10分後には森林植物園に着いた。高齢である証明書を見せて入ろうとすると「今春から、神戸市民以外の人は無料でなくなったのです」と。

早い話が300円払えというのだ。これまでの無料は兵庫県人の特権でもあったが、特権が喪失した精神的ショックは大きい。しかも、今回はここを通過するだけの予定なのでなおさらである。

よって、森林植物園でゆっくり1時間ほど過ごし、東門から布引谷に出た。先日の雨のためか、谷の水が思ったより多くて、徳川道の飛び石も冠水するくらいの水量である。それでも徳川道の山道の方は谷筋でも良い場所を選んでつけているからか、しっかりしている。日差しが暑い。黄連谷出合付近の木陰で昼食を摂った。予想より登りがある。堰堤のたびに急登を要求してくるのだ。桜谷出合で一旦谷まで下る。ここで左岸に渉るが、この飛び石はさすがに大きな石を使っているのではほぼ冠水していない。ここから徳川道は桜谷出合から直接穂高湖へ行くのに対し、シェール道は遠回りする布引谷に沿っている。それだけにシェール道は緩いのだ。しかし、これが正解だったかどうか今でも疑問である。なぜなら、今や布引谷にいくつかの堰堤が造られ、それを越えるだけアップダウンがあるからだ。



『桜谷出合』の飛び石は特に大石を使っている

結局シェール道は支尾根を二回越える道となっていた。谷を下るときはさほど感じなかったのだが、遡行の時は意外と急坂で登らされた感じがした。しかし、このアップダウンも安全な道、かつ

谷歩きに変化を与えるスパイスかも知れない。



『布引谷』上流の傾いたまま架けられている橋

布引谷の最上流近くも昔に比べ相当に荒れていた。昔のこと、高村さんが当時は水平だった橋から滑って谷に落ちたことがある。しかも真冬だったから、どうなることかと思ったら、その谷底は砂地だったことと、冬、しっかりとスパッツを付けていたので、水が靴の中入る前にピョンピョンと跳ねて岸へと脱出することが出来たのだ。

あの時、谷で転んで骨折でもしていたらと思うと、今でもゾッとする。あの橋はどこだったのか、また砂地の場所すらわからない。

谷が細くなったあたりで車道に登る。車道といってもそれなりの道幅があるだけで舗装などなくガタガタ道である。ここで一旦休憩とした。もう穂高湖は近い。伊豫さんがコーヒを開業しても良いかと訊ねた。良いでしょうと答えたら、ここでもみんなのザックからいろいろな食べ物が出てきた。それだけに会話も弾む。14時20分。微妙な時刻である。穂高湖の喫茶店に立ち寄るとしたときの本数の少ないバスの時刻が微妙なのである。

これは行ったとこの勝負だ。穂高湖の堰堤までが20分、堰堤を越えるのが5分、そしてCaféには14時50分に着いた。平日だったためかCaféはガラガラだった。先日の開店時には長蛇の人で店員はてんてこ舞いだったというが、今はその気配すらない。先日の忙しさがあつてか、今日の閑静さに満足しているようにも見えた。

肝腎の摩耶山行きのバスの時刻は15:20でここからバス停まで10分を見ておけば十分とすると、ちょうどバスに乗れるのだ。つまり記念写真を撮り、一旦解散するのが賢明と判断した。

このCaféには、超きれいなトイレがありうまいコーヒが飲めるということだが、三宅さん、鈴木さんはバス停に向かい、伊豫夫妻、宇野さん、高村さんはなおも摩耶山まで歩くとのこと。トイレも使わずに行ってしまった。確かに今日の暑さ

で随分と汗をかいたので不要らしい。コーヒーのために1時間もここにいるのは退屈かも知れない。

結局のところ残ったのは篠島さんと加藤夫婦だけであった。Caféがお洒落の分だけ値段もお洒落だった。篠島さんはここなら車で来られるので、今度奥さんを連れて再訪するとのこと。



Caféから見える『シェール槍』

今日の暑さですぐいぶんと汗をかいたのでCaféの水をがぶがぶ飲んだ。水はもちろん無料だった。

1時間遅れのバスでも摩耶山で伊豫さんたちと合流できるのではないかと考えていたが、歩くといえども亀の如しで、我々より20分早いロープウェイですでに下山していた。

武庫川廃線跡Pw

・実施日 2024 6/13(木) 報告 井上 (16期)

本年前半の最終を飾るPwにしては、やや彩に欠ける感はあるものの、余り知られていない武田尾～生瀬間の廃線跡と武庫川を渡る恐ろしく幅の狭い橋二つを踏破する。気温も高くなって、熱中症の恐れがあるためか、何時もより参加者は少なめ。6名が参加した。いつもは11期の加藤さんと15期の三宅さんが企画しておられるが、今回はこの近くに住む私、井上に白羽の矢が立った。この場所は家から歩いて行ける近場。廃線跡の下見だけ済まし、本番を迎えた。



武庫川廃線跡『長尾山第1隧道』付近

JR 三田線武田尾駅に集合し、廃線跡を歩く。福知

山線は電化と複線化のため、昭和61、2年頃、路線変更となり、川べりを走っていた単線は廃線となった。それ以前に三田方面にお住まいの方には、この廃線跡はきっと懐かしいに違いない。6名全員揃うと、いざ、出発。最初にトンネルと出くわす。電灯はない。真っ暗な中、でこぼこしたグリ石を踏みしめながらゆっくりと歩く。懐中電灯の明るさが足りないと足元が覚束ない。あつ子さんは「100円ショップで買ったのよ」とライトを点けて見せた。100円ショップ恐るべし。足元がしっかりと浮き出て、いやに明るい。加藤さんが買い求めた強力懐中電灯は更に凄い。余りの光量に、他人に迷惑になると、カバーして弱めていた。それでも威力は流石のもの。トンネル全体が明るく浮かび上がる。皆、傍に身体を寄せ、芋虫の如く歩く。最初のトンネルは程よく短い。冷蔵庫の中のように、ひんやりとした癒しの空間である。



『亦楽山荘（桜の園）』

トンネルと過ぎると、笹部新太郎が桜演習林として各種の桜を植えた桜の園と呼ぶ広場に到着。笹部新太郎は明治中頃の人物。七高から東大で法学の道を歩んだ。ところが、どういう訳か桜に憑りつかれ、桜研究に一生を捧げた人物。春ならば見事な桜に圧倒されるであろうが、今は来春への英気を養うためか、緑の葉が生い茂っている。蒸し蒸しする中、木陰にいと川面のそよ風で、ひと時の安らぎを覚える。笹部新太郎と彼に仕えた植木職人の生涯を描いた「櫻守」(水上勉著)の小説を忘れてはならない。これをドラマ化し、林美智子と田村高廣が主演した昭和のNHK番組「櫻守」をかすかに覚えておられる方もあるかも知れない。ゆっくりと休憩し、在りし日の名優を偲びつつ、桜の園を後にした。

短いトンネルを二つほど過ぎす。暗さに慣れると、比較的歩きやすい。ところが四つ目のトンネルは、さすがに長い。暫く進むと暗黒の世界。トンネルの壁がぼんやりと浮かびあがる。進むにつれ、それが

覆いかぶさって来る。加藤さんの強力ライトでも出口まではとどかない。グリ石の踏む足音だけがやけに大きく木霊して来る。大勢の力ありがたいものだ。一人だと怖さに震え、立ち竦むに違いない。トンネルを出ると、左に武庫川の溪谷と奇岩の連続。



『武庫川第2橋梁』と『溝滝尾隧道(後方)』

中ほどで、食事にした。持ち寄ったお菓子を皆で分け合い、美味しさと共に和ませてもらった。近くに高座岩なる奇岩があるらしい。この岩に伝わる民話を加藤さんは話す。農家で育った息子が或る時、「雨に困ったなら、白馬の生き血をこの岩にかけると、雨を降らす」と言って、滝の精に姿を変え、川に帰ったと語る。加藤さんの蘊蓄にいつも感心させられる。しかしそれがハイキングの楽しみの一つなのだ。

やがて、問題の幅の狭い歩道橋に到着する。ここは私の家の近くながら、加藤さんに教えられるまで知らなかった。グーグルマップを幾ら拡大しても橋の姿かたちは現れない。遠方に住む方が、どうしてこんな橋を知っているのか不思議でならない。橋は水道管の上に設けられ、狭いながら、鉄骨のしっかりとした橋。対岸の青葉台地区には、下流に大きな車道橋がある。青葉台は橋が命の、閉ざされたエリアだ。この狭い歩道橋でも名塩方面へ行くには便利で、ありがたい存在なのだろう。歩道橋を難なく渡った。車道橋へでるには青葉台の峠を越えねばならない。これが一寸きつい急登。三宅さんの「ほぼ平坦」ではないか。「ほぼ平坦」とは、後で知ったことだが、京都大原から鞍馬に抜ける道で、「ほぼ平坦」と三宅さんが語ったところ、相当きつい上りだった様だ。それ以降、思わぬ急登を指す言葉に変わった。峠道の頂上で、一休みし、息を整える。

その後、下りはお手の物。川を渡ってすぐに、生瀬駅がある。ここまで来ると流石に暑い。駅舎の陰で涼んでも、暑さは治まらない。大先輩の智美さんは流石にこたえたのだろう。電車で宝塚に向かうとここで別れた。駅を出ると、暫くして、浄橋寺と言

う寺に着いた。この寺は鎌倉時代の末、寺の開祖がこの地を荒らす山賊に仏の道を説いて、武庫川に橋を架けさせ、「浄橋」と名付けたと伝わる。この橋の通行料が彼らの生活の糧になった様だ。ここ生瀬の街道は、有馬へ向かう要衝。ここから山道となるため、荷役人足や馬人足が住みつき、物流の拠点になった。その様子が「浄橋寺文書」と言う古文書に示されている。この橋を渡って隣の村が名塩。越前和紙の技術が伝わり、和紙の里として有名。もう一つ忘れてならない人物、八重さんがいる。大河ドラマ「八重の桜」で知られる新島襄の妻、八重さんも有名だが、こちらは適塾を開いた緒方洪庵の奥さんだ。洪庵亡き後、この地で蘭学を広めたため、蘭学者の多くがここを訪ねたと言う。その通りを「蘭学通り」と名付け、今も残っている。

ここを出ると、ウィルキンソン記念館を訪ねた。ウィルキンソンはイギリス人実業家で、日本に炭酸飲料を広めた人物。戦後、経営者が変わり、「バリエース・オレンジ」を生産した。銭湯で飲んだオレンジジュースの味を今も覚えている方はいるのではないだろうか。直ぐ目の前に、幅が60cmと更に狭い橋がある。日本記録認定協会が認定した日本一狭い橋だと言う。確かに狭い。水道管を点検するため作った橋を一般に開放したもの。この地域に住む人にとって、宝塚の駅へ行くには便利な橋だ。川幅も広がり、結構長い。この橋はスリムな方でないと交差ができない。「若い女性との交差なら楽しみ」と不届きな話が出る。若い女性なら渡り終えるまで待っているに違いないと思いつつ、領いてしまう。



日本一狭い橋『生瀬水管橋』

そうこうお喋りしつつ歩いていると、あっという間に宝塚駅に到着。宝塚に着くと、智美さんが待っていた。安堵の気持ちなのか、汗が流れ落ちた。無事にハイキングを終えたことに感謝する。そして心はもう次のパーワンに移っていた。

古知谷阿弥陀寺Pw

・実施日 2024 10/9(水) 報告 加藤 (11期)

やはり京都かな。姫路あたりでも良いのだろうけ

どみなさんのアクセスの便利さを考えると京都が良い。それに京都は歴史的话题に富んでいる。問題はインバウンドによる人の多さである。で、捜していくと大原の奥にも寺があるではないか。

調べると紅葉の寺とある。季節外れの10月なら人が少ないだろう。実にいい加減な発想である。10月はダイヤモンドソウとある。あまりパツとしないが、何かあればよい。

なおも調べると、木喰なる人が江戸時代に開いたとある。あの仏像をたくさん彫った人かと思ったらそうではなく、木喰とは菜食主義でも穀物すら食べない聖人らしい。とにかくここに決めた。下見をせずとも便利な世の中だ。HPでなんとかなる。



阿弥陀寺の駐車場

当日の集合前に、偶然にも地下鉄国際会館駅の改札口で、桑名からの森川さんを含めほぼ全員が集まった。早着の井上さんの誘導で少し離れたバス停へ。名古屋からの野村さんが欠伸をしていた。

バスはここ始発が便利なのだ。京都駅から大原へ向かうバスもあるが、市内を抜けるのに時間がかかるので、これが良策なのだ。切符も地下鉄・バス共通一日券なら1,100円で大原まで往復できる。案内のHPにその旨を書いておいたが、誰一人気づいていなかった。悲しい。

怪しい天気予報だったが前日から好転した。小雨でもなんとか時間つぶしに対応できるのが京都である。10時13分発のバスは20分で終点の大原BTに着いた。

トイレなど済ませ、10時45分敦賀街道を北に向け出発。ここから約2kmの旧道を歩く。時折り来る車を気にするだけ、旧道はそんなに広くないので、車の方でもこちらが年寄りだからか気にしてくれる。この季節さしたるものが見当たらない。ミゾソバの仲間やシオンなどの秋菊があるくらい。といってもこちらあまり野の草を知らないの、見えていないのかも知れない。



竜宮風の『阿弥陀寺』山門

11時20分頃に「洛北の名刹阿弥陀寺」の大きな看板が見えてきた。ここが駐車場らしい。看板の裏は大きな紅葉の木。紅葉の頃はここだけでも見事だろうと思われる木である。奥に中国風の山門が見えた。我々の年代なら竜宮風といった方がピンとくる。看板を背景に記念写真を撮ったが、山門の前でも撮った。門はもっと寺に近いところにあると思っていたのだが、ずいぶんと街道の近くだった。

この門から寺へ舗装の道がついている。しかし、思ったより急なのだ。登るにしたがい急になってゆき、最後の寺は城のような石垣の上に建っていた。舗道の案内するまま最後の階段を上ると受付があり、そこで入山料を納めた。寺まで標高差150m弱であるが30分を要した。

ちょうど正午だったので、境内で食事してよいかと尋ねると、「庭では困ります。客間にテーブルを二つ置いてあるのでそこを使ってください。テーブルが少し狭いかも知れませんが・・・」。

この寺は花の寺、一見して手入れしてあることがうかがえる。幸いその時の客は我々だけだったのでそのような配慮をされたのかも知れない。人の多いときはそうはいかないだろう。



阿弥陀寺は下から見ると城のよう

寺は斜面を使っている建物が段状に建っていると思ったが、ほぼ同じ地面に建っているのが驚いた。客間というと10畳ぐらいの部屋かと思ったら、開け放しの一棟全体だった。その中にちょこん

と長机が2台置いてあった。

寺に興味のある人は、本堂やこの寺の開基である弾誓(タベイ)上人の窟屋に向かい、腹が減った何人かは持参の食事をはじめた。時間差で食べれば、この机でも決して狭くはない。それにしてもこんなに良い場所で食事をさせてくれるのは京都では珍しいのでは。一気にこの寺の好感度が上がった。

縁側越しに今が盛りのダイモンジソウやこの部屋から続く本堂とその前庭が見える。

古刹というが、創設が江戸初期だからそんなに古くはない。しかし、弾誓の生き方がすごい。それは省略しても、死に方もすごい。最期は弟子たちに裏山に窟屋を彫らせ、その穴の中で人々の救済を願い入滅したという。近年になってから、骨を拾おうと窟屋を開けたらミイラになっていたのを、石龕に収め元の窟屋に置いたそうである。



客間で食事がいただけるありがたさ

そのような記述を読んでいたのだから、窟屋というからには寺から離れていて、とてもそこへは行けないと想像していたのだが、窟屋は寺のすぐ後ろの崖にあり、廊下伝いで行けると教えてもらった。えっ、そんな簡単に！！石龕は開けることはできないが(開けたら怖くていけないかも)窟屋を見に来ることにした。

窟屋は立つことのできるくらいの高さで、中で座禅を組みことも出来そうな広さだった。ちょっと不気味だったけど、弾誓を身近に感じた。本堂には鎌倉時代の立派な阿弥陀仏もあるが、ここのご本尊は弾誓が自分自身を彫ったというもので、弾誓仏と呼ばれている。本堂では、弾誓仏も重要文化財の阿弥陀仏も近くで見られる。昔々の京都のようだ。

庭に入ってコマクサが咲いているのに驚いた。聞けば二度咲き株かも知れないと教えてくれた。この標高なら花が咲くのは8月までぐらいが限度だろうに。六甲高山植物園でよく見るノコギリソウ花もあるが、咲く季節もおかしい。これも「シムシュ(占守)ノコギリソウ」とのこと尋常の寺ではない。

当日、みなさんには、占守島がアリューションと言いつ張ったが、アツツ島と間違えてました。ゴメンなさい。占守島は千島列島の一番北の島です。



阿弥陀寺本堂の前庭にて

よく見るといろんな花が植えられている。しかも季節的に珍しいものもあった。ダイモンジソウも普通に見る花と違う。只者ではないような品種があるようだ。盛んに咲いていたのがマツムラソウ(初めて見た)、エンシュウハグマと背丈の高いテイショウソウ。カリガネソウもウメバチソウも咲いていた。

石垣にはキイジョウロウホトトギスの群落が垂れ下がっていた。

大原は人であふれているのに、ここを訪れる人は本当に少ないという。しかし、花の寺でもあるこの寺の雰囲気が入って再訪する人も多いとのこと。季節ごとに訪れる人もいるのだとも。

何の努力もしないのに、企画者の株が上がったPwであった。

さいごに

近畿支部では、参加者の年々の減少と企画内容の軟弱さが目立つようになってきています。これについては、ほぼ発足当初からの会員主体で運営し続けている老齢化のためです。よって、ここでの報告は近畿支部本体欠如のシルバー会の活動とみなしご覧ください。

近畿支部本体の立ち上げについては、昨年の総会の席で20期以降のOBに、現シルバー会状態の活動に遠慮することなく、好きな運営方法で活動してくださいとお願いしました。多分、水面下で動き始めてくれているものと思っています。早く水面に上がって見える形で活躍されることを期待しています。

参考 2023 年秋以前の活動

近畿支部の活動まとめ（2022年秋以降） 名前に添字のある方は女性、○（ ）は期です。

2022 10/28(金)	磯城・山邊Pw（企画 加藤） 参加者12名
金岩⑤ 伊豫⑧ 伊豫a⑩ 加藤⑪ 加藤s⑪ 森川⑪ 赤地⑫ 鈴木⑮ 高村c⑮ 三宅⑮ 井上⑯ 黒崎(22) 長柄駅～大和神社～山の辺の道～歯定神社（昼食）～長岳寺～崇神天皇陵～黒塚古墳～五智堂～柳本駅	
2022 11/14(月)	六甲・菊水山Pw（企画 加藤s、高村c） 参加者12名
金岩⑤ 伊豫⑧ 篠島⑧ 伊豫a⑩ 加藤⑪ 加藤s⑪ 上馬⑮ 宇野a⑮ 鈴木⑮ 高村c⑮ 間所m⑮ 三宅⑮ 神鉄鈴蘭台駅～菊水山登山口～菊水山～登山口～妙号岩の下～石井ダム～立ヶ畑ダム～石井橋バス停	
2022 12/5(月)	京都・大悲閣Pw（企画 伊豫、加藤） 参加者12名
伊豫⑧ 高水間t⑧ 伊豫a⑩ 畔山⑪ 加藤⑪ 加藤s⑪ 森川⑪ 宇野a⑮ 鈴木⑮ 高村c⑮ 間所m⑮ 三宅⑮ 阪急嵐山駅～中の島～大悲閣～渡月小橋～法輪寺～松尾大社～地藏院～浄住寺～阪急上桂駅	
2023 1/20(金)	高槻茨木古墳巡りPw（企画 三宅） 参加者16名
金岩⑤、伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、畔山⑪、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、 野村⑫、赤地k⑭、上馬⑮、宇野⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯ 摂津富田駅＝氷室～今城塚歴史館～ハニワ工場公園～京大地震観測所～阿武山～阿武山口＝出発点	
2023 2/20(月)	姫路城の堀と城門巡りPw（企画 加藤） 参加者14名
金岩⑤、伊豫⑧、黒崎⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、赤地⑫、野村⑫、 赤地k⑭、宇野⑮、宇野a⑮、鈴木⑮、三宅⑮、井上⑯ 京口駅～外堀・中堀巡り～姫路総社～イーグル姫路～三の丸～男山～内堀巡り～車門跡～姫路駅	
2023 3/27(月)	石清水八幡宮と背割り桜Pw（企画 三宅） 参加者11名
伊豫⑧、篠島⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野⑮、宇野a⑮、鈴木⑮、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯ 京阪石清水八幡宮駅～単伝庵～泰勝寺～男山展望台～八幡宮本殿～安居橋～背割り桜～八幡宮駅	
2023 4/25(火)	再々京都・長尾山Pw（企画 加藤） 雨天中止
2023 5/10(火)	再々々京都・長尾山Pw（企画 加藤） 参加者8名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、森川⑪、高村c⑮、三宅⑮、井上⑯ 京都駅＝梅ヶ畑清水町～平岡八幡宮～長刀峠～長尾山～京見峠～菖蒲谷池～嵯峨天皇陵～大覚寺	
2023 6/12(月)	君影ロックガーデンと朝ドラPw（企画 高村c、加藤s） 雨天中止
2023 6/26(月)	武田・京都薬用植物園見学Pw（特別企画 加藤） 参加者6名
伊豫⑧、伊豫a⑩、加藤⑪、加藤s⑪、宇野a⑮、高村c⑮ 叡電修学院駅～鷲森神社～京都薬用植物園（見学）～曼殊院（国宝黄不動参観）～叡電一乗寺駅	
	
＜京都『浄住寺』で集う近畿支部参加者2022年晩秋＞	

2024 年 小屋作業

22 期 黒崎敏男

春の実施概要 (2024 年 5 月 18 日～19 日)

【参加者】

OB 11 期長岡 15 期上馬 22 期奥村、黒崎
(日帰り) 13 期大島、辰野、都野顧問
現役 66 期 (4 年) 大倉、江尻
67 期 (3 年) 濱本、笠井、野上、川北
中西、安田
68 期 (2 年) 山田、小畠、栗田、横山

18 日 (土)

6:00 イオンに集合、ゲートで辰野さん、大島さんと合流。8:00～OB4 人がボート 2 台で移動し資材運搬。現役 12 人、顧問、黒崎が徒歩で移動。高桑さんの碑は変わらず無事で献花できたが、周囲のがけ崩れはさらに進行中で通過中も上から小石が落ちてきた。

吊り橋近くで以前からの崩落箇所が大きく崩れ、ダム湖まで 20m 程度切り立った崖になり、道が完全に遮断され通行不能。前もっての情報により、いったん戻って 30m の高さほど高巻きする。直前に張ってもらったロープを頼りに何とか通過したものかなり危険。へつりの箇所は水量も少なく整備もされていたため特に問題なく通過。道の悪さの影響で 3 時間以上かけて小屋につき、先発 OB と合流。昼食。

12:00～辰野さんからの指示を受け作業開始。大島さんがホースの補修に当たり必要な水量を確保。

14:00 辰野さん、大島さん、津野顧問がボートで帰宅。残ったメンバーで作業を継続。屋根の補修、ペンキ塗り、床板の取り換え、ホースの補修、高巻道の草刈りを分担して進め、予定の内容はほぼ完了。

18:00 夕食。19:00～参加者から自己紹介、懇親。

21:00 以降各自就寝。現役は外で焚火をしていた。

19 日 (日)

5:00 起床、朝食

6:00 活動開始。床板貼付けや屋根塗りの追加、備品片付け、掃除など各自で適宜作業。

10:00 早めに昼食を取って、以降は休憩とする。

13:00 全体を片付け、撤収。吊り橋まで移動し、ボート移動者と徒歩 4 人に分かれて移動。

15:30 全員がダムに戻り、ゲートに移動。イオンに移動。解散。

秋の実施概要

下見 (2024 年 10 月 1 日)

【参加者】

OB 21 期竹本、田坂 22 期奥村、黒崎

7:00 ホテル発 8:30 ダム発、下草が多く歩きづらいへつりの丸太がなくなっていたため川を渡る。

11:30 小屋着、草刈りや導水の確認の後、昼食

13:30 小屋発、迂回道に行く。16:00 ダム着

17:00 ホテル着、解散

本番 (2024 年 10 月 12 日～13 日)

【参加者】

OB 15 期上馬、坂尻 22 期黒崎

現役 68 期栗田、佐藤 69 期藤川

12 日 (土)

7:00 イオン集合、8:30 ダム発、草刈りがされていて前回より歩きやすいが荷物も重く、崩落箇所の高巻きなどでは苦勞して通過する。へつりの箇所は靴を脱いで川を渡る。さらに薄の激しいブッシュを通過し 12:30

ようやく小屋に到着。導水を確保し、昼食を取る。

14:00 草刈り作業と夕食準備に別れそれぞれ作業する。

17:00 夕食を始め、懇談する。20:30 ころ就寝

13 日 (日)

5:00 起床、7:30 小屋発、前日の草刈りでしばらく歩きやすいが登り口まで半分ほど行った沢が大きくえぐれた箇所に達したところで現役生の 1 人が足を滑らせて 2 m ほど滑落。さらにその援助に当たっていた上馬さんが 5 m ほど落下。それぞれ軽傷であったが大事を取って作業を中止し、小屋に戻る。しばらく休憩して 13:00 小屋発。帰りも慎重に歩き、16:00 過ぎダム着。17:00 までにイオン着。(その後、念のため各自病院を受診頂き、それぞれ外傷のみとの報告を受ける。)

今回は大きな事故に至らず安堵しました。道の状態は年々悪化しており、今後の活動に際してはさらに安全を意識して行いたいと思います。



2024 年のワンダーフォーゲル部

67 期 濱本倫太郎

お世話になっております。現ワンダーフォーゲル部の部長（67 期）の濱本倫太郎です。この度は「やまざと」への原稿を書かせていただく機会をいただきまして嬉しく思っております。

少し自己紹介をさせていただきます。私は愛知県出身で、小学校ではサッカー部に、中学校ではバレー部に、高校では弓道部に所属と、様々なスポーツに触れてきましたが、登山においては小学生の頃に極まれに親と日帰り登山をしていた程度の経験しかありませんでした。私が育った北名古屋市は濃尾平野に位置しており、遠くに山々がうっすらと見えるような町なのですが、それゆえか、手の届かないところにある山という存在になんとなく惹かれていたように覚えております。

その後金沢大学に入学し、ワンダーフォーゲル部に入部し、初めてのテント泊で凍えたり山でみる朝焼けに感動したりして、大倉前部長の推薦をいただき部長を引き継ぎました。

今年の活動

今年は5月ごろに部員が確定いたしまして、1年生が約30人入部し、計60人ほどの部員を抱えてのスタートとなりました。

その後6月に恒例の医王山登山を行いました。1年生はほとんどが登山初心者だったため、皆疲れた疲れたと言ってくるのを聞いて、この2年で私も成長したのだなと感じたのを覚えています。しかしながら、登山初心者いきなり医王山を6時間歩かせるというのは大変すぎるようにも思えるので、最初はキゴ山でもよかったのではないかとたまに思い出します。次の7月では、昨年は奥獅子吼山に登ったのですが、今年は白山登山に向けてもう少し標高が高めの山を目指そうと考え、三方岩岳への登山を決めました。土曜日と日曜日で班を分けたのですが、土曜日は天候が悪く、登山をあきらめました。日曜日に登った班からはとてもいい眺望だったと聞いて悔しい思いをしました。そしていよいよ白山登山を9月に企画したのですが、予定日は台風の影響により登れなくなり、そのリベンジとし

て10月にも企画しましたがそちらも雨により中止という形になってしまいました。おそらく常軌を逸した雨男を我が部に迎えてしまったのでしょう。

部として行った登山は以上ですが、ほかに個人で人を募集し行きたい山に登ることもよくありました。私は火打山に一度、蝶が岳と薬師岳に二度登りました。そのたびに後輩も参加してくれ、少人数ながらも次の代に登山のおもしろさというのを伝えられたのではないかと思います。

薬師岳

10月に部員6人で薬師岳に登りました。紅葉の時期を狙った登山でしたが、予想していたような色鮮やかな景色というわけにはいかず、黄色がかった、もしくは色あせた景色を楽しみました。もう紅葉は終わっていたのでしょうか。とはいえ、天気にも恵まれ、テント場もかなり空いており、そこで作ったご飯も大成功と、かなり満足のいった登山となりました。

キャンプ場となった薬師峠キャンプ場では、チーズカレーリゾットを作り食べました。鍋ひとつに具材を放り込みカレールーを作り、そこに米を入れて柔らかくなるまで適宜水とルーを足しながら煮込むだけでできるので、ぜひ皆さんもお試してください！



左：太郎平での夕焼け（2024/10/13）



右：太郎平から眺める薬師岳（2024/10/14）

伊豆諸島八丈島の旅

8期 篠島益夫

この夏は昨年的美ヶ原に続いて霧ヶ峰・入笠山を計画するも変わりやすい予報に振り回されて中止となりワングル仲間との旅はこの秋の八丈島となりました。

羽田からの ANA 便利用もあり時間的にはゆとりの旅でした。期間は 10 月 15 日～18 日の 3 泊 4 日、関ヶ原の敗将で加賀藩ゆかりの宇喜多秀家の流刑地であり、その妻豪姫は前田利家の娘であった縁で流刑地の宇喜多家には扶持米や生活物資を廃藩置県に至るまで加賀藩が八丈島に届けたという加賀藩因縁の島でもありました。

10 月 15 日 (火) : 舞鶴の高水間さんは高速バスで神戸へ、神戸の篠島夫妻と共に昼食を済ませて神戸空港から羽田へ、八王子の山中氏とは羽田の第二ターミナルで合流して ANA 便に。この日は八丈島への到着が 17 時頃なので「民宿あさぎく」に直行、夕食は地元の魚づくしの料理、この日の宿泊は我々 4 名だけ、この時期は釣目当ての客が多いとの話だった。夕食後の期待の星空観察は雲が多く諦めた。

10 月 16 日 (水) : 7 時半に予約のレンタカーが宿に届いたので 8 時には出発、天候は良さそうので島一周道路から八丈小島を展望して八丈富士 7 号目環状道路へ、ここは展望は良い三原山や島中央部の平地部と街並や空港など展望のある快適なドライブウエーだ。



大越鼻展望台・4 人のメンバー・八丈小島

この道に八丈富士登山口があり、ここからは徒歩でお鉢巡りコース出発点をめざして階段道を登る事になる。登山に難のある妻はドライブウエーの先にあるふれあい牧場へ、3 人は階段道を登る、予想外にシンドイ。9 時に登山開始、最後まで階段道で途中 2 度休憩し

ながら 10 時 10 分に火口壁のお鉢巡り出発点に到着。30 分ほど休憩と展望を愉しんでから 2 人がお鉢巡りコースから頂上までを往復する事にした。10 時 45 分に出発、出発点には頂上まで 15 分、お鉢巡りは 50 分と案内プレートに書かれていたが溶岩の激しい凸凹地形でなかなか見えている頂上には近づかず、結局頂上には 30 分かかって 11 時 15 分に到着、標高 854m の頂上標識がある。展望はお鉢巡り出発点では見えない火口底に近い火口湖も見え南側の三原山や太平洋が見えて雄大である。



八丈富士頂上・h854m

我々に先行していた若いカップルはお鉢一周の心算で出発して行った。写真撮影や休憩しながら二人を見ていたら此处までのピッチとまるで違う速さで進んでゆくのでこちらも頂上からしばらく歩いて見ると火口壁がこれまでとは違う草原になっておりピッチが上がっているのなるほどと分かった。我々はお鉢巡りコース出発点に戻るのに 11 時 30 分には出発して再び溶岩の凸凹コースで 12 時前には山中氏の待つお鉢巡りコース出発点に戻った。そこから登山口まで下山だが、右膝関節に問題のある私は登りと変わらない時間を要し 13 時過ぎにレンタカーの待つ登山口に戻った。環状道路沿いのふれあい牧場に立ち寄ったが食事場所がないので一旦街まで下りて昼食、再び島一周道路に戻り、溶岩流で出来た南原千畳岩海岸や宇喜多秀家と豪姫の碑などに立ち寄り、海水浴場のヤケンケ浜を通して展望地の大坂トンネル入口に向かった。この辺りからは三原山の山麓エリアになる。

大坂トンネル展望所は八丈富士、八丈小島などが視界に入る景勝地という事だ。

此处はカメラを持った人が多く、谷に架けられた高架橋歩道は賑わっていた。トイレも完備されているが、街以外では土産物屋や食事

処は無いのがこの島の特徴だ。



大坂トンネル展望所・八丈富士と八丈小島

三原山麓に温泉が7ヶ所もあるので此れを愉しむのも旅のメニューなのだが、宿泊地は三根地区で八丈富士に近くだが此方では温泉が無い。そこでこの日も夕方に民宿に入る前に三原山麓のふれあいの湯で汗流しとなった、源泉かけ流しは当然でやや熱く塩分が効いていた。民宿は魚料理主体ではあるが昨日とは魚の種類や調理法が変わっていた。食べ切るのが大変なボリュームだ。二食付きと言っても朝はおにぎりとお茶だけ、せめて味噌汁くらいは欲しいところだが、釣り客が多いので朝の出航が早く、それで良いという事らしい。夕食後の星空観察は雲もあり期待外れではあるが18日の一六夜に向けての雲間に上り始めの月は綺麗だった。

10月17日(木)：明け方に雨がかなり降ったらしく道にも水たまりが目立ったが予定通り空港近くの八丈植物園とヴィジターセンターから歩き始めた。飛行場と並んでいるので飛行機や青ヶ島へのヘリ便の音はよく聞こえるが植物園から空港が見えるわけでもなく其れらしい雰囲気だが説明版が無いので樹木名は分からないものも多かった。温泉の入浴料も安い(植物園も入園料は無い。東京都だから財政もゆとりが有るのだろう。ヘリも大島・三宅島・御蔵島・青ヶ島・八丈島・利島に東京愛ランドシャトルとして路線があるが観光ヘリに比べたら安い(船便の4倍以上はするとしても)。これも都が補助をしているのだろうと推察する。船便よりも就航率が高く便宜性は高いが欠点は乗客定員が9名なので予約が取れない事で我々も八丈から青ヶ島の旅は断念した。

この後、大里の玉石垣を見てから早めに昼食を済ませて三原山林道に入り頂上付近の登山道を探した、林道に入って標高が上がる程に雨が降り出してうんざりしたものの頂上に繋がる電波塔管理道路を見つけて進み最後は山中氏が徒歩で頂上への登山道を見つけたのでその付近に車を置いて登山道に入り200m程で頂上標識

のある三角点に着いたのでメンバーがその後に続いて頂上に達した。その頃、雨は止んでいたが頂上からの遠望はアウトだった。



大里・玉石垣群



三原山頂上・h700m

道幅が狭く雑木が道路にはみ出して走りにくい三原山林道を下りてからは伝統工芸的な黄八丈ゆめ工房に立ち寄り草木染や機織工程の説明を受けてから裏見の滝へ、滝を目指して山道を進んだが滝の音も谷川に水の流れも無い事に違和感を覚えながら片道15分も歩いて見たのは滴のような滝とは言えない崖沿いの水路、ちょっと呆れた風景だった、かなりの雨が降ったら滝になるかも。この旅での期待外N01だった。

この日は島の南部の三原山周辺が多かったが、この後名古屋の展望台、八丈島灯台などを巡って最後にみはらしの湯での入浴だった。ここは期待通りの展望付の温泉で文句なし。展望の効かなかった三原山頂上や期待外れの裏見の滝などのマイナス気分が晴れた。

塩味の効いた展望温泉をゆっくり愉しんで今度は八丈一周道路の東側を通って3日目の民宿へ。この日の夕食は魚料理が多いものとうとう肉料理も出てきた。

10月18日(金)：この日は午前中がフリータイムなので郷土博物館や宇喜多秀家墓所などの以前に予定しながら行く事が出来て居なかった所を訪れた。郷土博物館では詳しい島の歴史や幕府直轄地としての統治など今まで知る事の無かった事が分かったり、感心したり。八丈島空港での昼食を済ませて帰路に着いた。おわり

シニアを魅了するアルプス山行 (17 年間)

9 期 鍋島 武



Takeshi 加岳井武志
1947 年 (昭 22) 生 喜寿



Takeshi 鍋島 武
1944 年 (昭 19) 生 傘寿

若い頃に同じ会社で働いていた二人のシニアが定年退職後の 2008 年から 17 年間、毎夏 (特段の事情年を除く)、南北アルプスの山行を継続実施しています。今年、喜寿と傘寿にあたる二人は今夏も南アルプスの北岳・間ノ岳の山行を楽しむことができました。

今夏と過去のアルプス山行のいくつかを紹介します。

2024 年夏 北岳・間ノ岳 喜寿と傘寿が楽しむ天空稜線散歩

この二人が 7, 8 年前から、『喜寿と傘寿の年に、北岳に登る』という大目標を共有し、平素から日帰り山行を繰り返し、また筋トレ・ストレッチで体調管理に励んできました。今夏、その目標を達成できました。

一日目 広河原→白根御池小屋

二日目 白根御池小屋→草スベリ→北岳→北岳山荘

三日目 北岳山荘→間ノ岳→北岳山荘 (天空の稜線)

四日目 北岳山荘→北岳→広河原

初日 大粒の雨に見舞われてスタート

広河原バス停に降り立ち、出発準備を進めている時に、突然、大粒の雨が降り出しました。KUWV 時代に『鍋ちゃんは雨男』という噂のある称号をいただいたこともありましたが、それにしても、意地悪な山の神がいるものですね。

スタートから雨に負けてはおられません、とにかく雨具をつけて、出発です。最近の雨具は、KUWV 時代のペラペラのポンチョとは違って、大粒の雨や風には負けない優れものです。雨具に助けられ、無事に白根御池小屋に到着。(山の神は実際には優しく、この日以外は雨具不要でした)

二日目 「傘寿で北岳」を達成 バンザイ!

出発時には、幸いにも雨が上がり曇り空。2 時間前後の樹林帯の急登を登りきると、そこには草スベリのお花畑が広がっています。苦しいシニアの身体にエネルギー

ギーを補給してくれるのはきれいな高山植物です。

お花畑を過ぎた後は、北岳から伸びる岩稜の尾根をゆっくりゆっくり進みます。右の谷の向こうから仙丈岳が『頑張れ!』、そして前方の北岳頂上が『その調子で前に進め!』と声援を送ってくれました。

白根御池小屋を出発して 5 時間、ついに北岳山頂に到達。長年の目標を達成した瞬間の二人のシニアたちの顔は嬉しさと自然とほころんだ (冒頭の写真)。

三日目 天空の稜線散歩

この日は、北岳 (標高 2 位) と間ノ岳 (標高 3 位) を結ぶ標高 3000m 級の天空の稜線を楽しむ日です。行程もそんなに厳しくないで、アルプスを心底楽しんだ一日でした。幸せです。登った者のみの特権です。

四日目 再度の北岳は晴れて展望最高!

下山は八本歯のコースを選択せず、もう一度北岳を経由して広河原に下るコースを選択。ずばり正解で、北岳は最高の青空で迎えてくれました。



南北のアルプスを毎夏、登り続けている我らシニア登山者を、山の神が見放すわけがありません。南アルプス周辺だけでなく、北北東の遠く彼方に北アルプスの槍・穂高まで顔を出して、シニアの『目標達成』を祝福してくれました。

山行の最終章は「人助け」

ゴールのバス停まで 30 分くらいのところで、動きが不自然な登山者を発見。疲労で膝がガタガタで歩けない高齢の単独行の女性です。二人で両脇を抱えてバス停までエスコート。長年の大目標の『傘寿・喜寿で北岳山行』を 100 点満点で無事終了です。

昔物語 ①

1964 年 KUWV 夏合宿 南アルプス北部縦走

60 年前の大学 1 年生の夏合宿で、南アルプス北部 (塩見岳、間ノ岳、北岳、仙丈岳、甲斐駒ヶ岳) を縦走。この合宿で歩いた北岳～間ノ岳の稜線に感動。忘れられない絶景の一つです。

60 年後にもこの稜線を歩くことになるとは、当時想像すらしなかったことです。

2015年夏 穂高連峰 緊張の連続 岩稜の難所を踏破

『大キレットや岩稜を超える技術はあるか』『体力は十分か』…などを慎重に検討して、挑戦することを決めたコースです。

一日目 上高地→岳沢小屋

二日目 岳沢小屋→前穂高岳→奥穂高岳→穂高山荘

三日目 穂高山荘→涸沢岳→北穂高岳→大キレット
→南岳小屋

四日目 南岳小屋→南岳→天狗池→横尾山荘

五日目 横尾山荘→明神池→上高地



あらかじめ覚悟はしていたものの、一時も気をゆるめることができない岩稜・岩峰が連続する穂高連峰です。岳沢の長い急登で奮闘し、予想以上の難所が続く涸沢岳を超えて、北穂高岳に到着。

ここで、大キレットへの突入を前に、北穂山荘から最新の情報を聞き、またヤマケイの萩原編集長から思いがけない激励を受け、二人はキレット突入を決断。4時間の大キレットとの格闘のすえ、難所中の難所を乗り越えて、南岳小屋に到着できました。

正直なシニアから、自然とガッツポーズが出ました。

(上の写真 バックは大キレット超えの穂高連峰)

昔物語 ②

1974年夏 『ビバーク』の穂高連峰縦走

夫婦で、岩峰・岩稜が連なる西穂高岳から奥穂高岳への縦走に挑戦。2日目、西穂高山荘を出発して、西穂高岳を順調に超えたが、天狗のコルを過ぎた頃、妻が急に体調不良を訴えて、前進を断念。風雨を十分に避けられる稜線脇の岩室を見つけて、ビバークを決断しました。

3日目の朝、幸いにも妻の体調が急回復。強い体力・高い技術が必要とするジャンダルムと馬ノ背、奥穂高岳の岩稜・岩峰群を無事通過。上高地まで一気に下山しました(若さとバカさの勝利)。

2013年夏 南アルプス南部 でっかい山を黙々と歩く

南アルプスの山はひとつひとつがでっかい。シニアにとってはきつい行程ですが、「若さを発揮できるのは今しかない」と決行を決断しました。

一日目 樫島(さわらじま)泊 歩きなし

二日目 樫島→千枚小屋

三日目 千枚小屋→荒川岳→赤石岳→百間洞山の家 四日目
百間洞山の家→聖岳→聖平小屋

五日目 聖平小屋→聖岳登山口

おおむね雨とガスの厳しい山行で、展望は良くありません。テント泊のワングル部の高校生たちが激しい雨のために百間洞小屋に駆け込んで、一晩中、小屋がごった返したこともありました。

最も感激したのは、三日目の千枚小屋から荒川小屋に至る行程でのお花畑です。(60年のワングル活動で、最も見事なお花の宝庫だと今なお思っています)



昔物語 ③

1966年春 『生死』の南アルプス南部PW

大学三年生春の PW。小生の当時の記録ノートのこのPWのタイトルは『生と死』という衝撃的なもの。荒川岳への稜線(北側)で、強風と降雪、深い残雪で、前進が難航。また一人のピッケルが折れるという極めてまれなアクシデントで大ピンチ。

エンビー本で掘ったビバーク用の雪洞で不安な一夜。翌朝、雪洞から外を見ると、快晴で目の前に荒川岳がそびえています。『助かった!』と安堵。二年生の小田切さんと木津さんとのある限りの気力・体力が難局から脱出・生還を呼んだのです。小生の60年間のワングル活動の中で、最もリスクの深淵に踏み込んだ山行です。

駄文につき、失礼しました。ご意見・質問等、気楽にどうぞ。nabeshima2828@nifty.com

以上

R6年 いちご会 (11 期会) 活動報告

この会名の由来は「1 1 期会」の一字づらせば「一期一会」となり、略して「いちご会」とした。毎年開催している15期会に触発され、我々と、宿泊を伴う懇親会を全国4地区に分けて持ち回りで基本年一回開催している。今年は何故か春と秋と2回の開催となったのです。

いちご会 春の部 in 京都

報告者 加藤忠好

- ・実施日 2024 3/14(木)~15(金)
- ・場 所 京都観光の穴場地帯(東山と一休寺)
- ・参加者 12名 (添字は女性)
井上、井上k、片田、加藤、加藤s、上村、窪田、杉森、杉森e、向s、森川、高田s(10期)・・・一休寺だけ特別参加
- ・報告

昨年は、向さんのご主人の企画による越前の歴史散歩であった。綿密な計画を立てていただいたのに突然参加できなくなり、副幹事の井上夫妻の「車」を使わず「歩き」を主体に計画変更、「史跡一乗谷の城下町(一日目)」と「北前船の湊町、三国(二日目)」を見て歩くことができた。

近畿が担当の今年、矢崎さんは天国から、畔山さんは体の一部不調で気持ちだけ担当となり、残った加藤夫婦が独裁的に企画することになった。

まず頭に浮かんだのが、神戸港から大分へ往復とも夜行行路を使う格安弾丸船旅。朝に大分に着いて、別府温泉を自由ウロウロ、夕方船に集合という2泊3日も考えたが、前回は畔山夫妻の仕切りで紅葉の高野山を楽しんだので、やはり京都かな? 「そうだ京都に行こう!!」。しかも私らしく、人の少ない穴場の京都を歩くことに。

言葉では簡単だが、インバウンドでますます京都の宿は予約しにくい。しかも高額である。が、捜せばある。きれいで超京都らしいのがだ。

- ・夕食 家康ゆかりの夕食を堪能する
- ・朝食 根来汁を中心とした精進料理
- ・会費 2万円ポッキリ(夫婦はその倍額)

予約したのは「智積院会館」。昨年三国で歩いた時に立ち寄った滝谷寺の所属する真言宗智山派の本山の智積院が運営する宿坊なのだ。このなんとなく繋がっているのが楽しくも嬉しくもある。

朝寝坊の幹事夫婦のこと、当日遅刻する可能性が大なので前日から泊まることにした。洋間の二

人部屋はまるでホテルであった。しかも寺の境内だけに景色も良くゆったりしていた。

さて企画初日、宿泊所ロビーを集合場所としていたが、杉森夫妻と森川さんが京都駅から歩きで、井上夫妻、向さん、上村さんがタクシー利用でやってきた。これで、初日の東山界限の散策参加者全員が無事集合した。

荷物をロビーに預け、11時に宿を出発。国立博物館前からバスに乗ったが案の定バスは超満員。それも清水道バス停で大多数が下車、通常状態に戻る。我々は白川に架かる橋の上がバス停になっている知恩院前で降りた。



柳並木が揺れる白川あたりは京らしい風景としてよく撮影に使われている。石橋の後ろにある古門や、白川に架かる幅の狭い石橋「一本橋」などはTVによく出てくる風景だ。川沿いには豆腐屋もあり、私の好きな地域である。今回、ここに架かるいくつかの石橋を完全制覇した人もいた。

すぐ近くに「京都地検の女」に常時出てくる古川商店街がある。昨日も、その商店街の通りにある人気おばんざいの店「万両」で初日の昼食の下見したのだ。昼にはさぞかし満員と思ったが、すぐに座れた。さほど広くはないが、10人ぐらいは大丈夫。壁に一文字が草書で書かれた色紙が飾ってあったので「華という字ですか?」と聞くと、店の若い女の子が「ちがいます」と言う。すると奥から「華です」と声がして女将さんが出てきた。「今お習字を習っているのです。」すぐく品の良い中年の女性だった。京言葉というのはこんなのかなと思われる話し方、知識も豊富で昔は芸妓さんでもしていたのかなという風情だったが、そこまで立ち入って聞いていない。「明日に10人弱で昼飯に来たいのだけど」というと、「明日はお習字の日なのでお休み」との返事。「で



京都散策の写真集

も、お酒が入ったお食事でお一人様 5000 円ぐらいの予算だったら何とかしまひょうか」という。観光臭さがなくそれでいて京都らしい店、一瞬グッときたが晩飯も似たようなものになるので「昼にお酒は嬉しいけどちょっと…」と断ったが、こんな機会は滅多にないと今でも残念な気がする。

よって、昼飯は神宮道のうどん屋「お福」にした。9 名しかも 12 時近くだったのでしばし待たされた。9 人も待っている風景を通りがかりの観光客は、人気の店と勘違いしたのかみるみる長い列ができた。待つ間に、幹事が「京都の庶民体験ならしっぽくうどんを食べるべし」の厳命を発したが、席は分散、誰が何を食べたのか不明である。

外からはやや広そうな店に見えたが、中はやや窮屈な店だった。平安神宮にも近いのでさもありなんと思った。うどんは出汁の利いた京風であったが、真っ黒になるまで炊いた椎茸も湯葉も見えず、やや無念だった。

店を出て、白川近くにある光秀の首塚に立ち寄り、「餅寅」の方の話をしたが、餅を買ったかどうかが思い出せない。それから古川商店街を歩き、東山三条から清水寺方面のバスに乗り馬町のバス停で下車。裏道で「大仏殿跡緑地公園」に出た。



実は、京都には奈良より大きな方広寺の大仏と大仏殿とがあったが、江戸後期の寛政 10 年(1798)落雷で燃えてしまった。ここは秀吉時代の大仏の礎石が発掘された場所である。当時はここから正面通りに通じていたらしいが、今は明治時代に建てられた豊国神社が前面に立ちはだかっている。

秀吉の建てた方広寺は広大であったそうであるが明治時代に土地をとられ、国立博物館や豊国神社が建てられ、寺は北隅に追いやられている。一方、方広寺は「国家安康」で有名な寺でもある。家康からイチャモンをつけられたが、当の梵鐘が現存しているというのは歴史の妙味である。

豊国神社には蜂須賀桜という早咲きの桜が咲いていた。門前にあるやや風雅な「甘春堂」に入った。宿から近いので、ここで今日のお茶会用の菓

子を注文していたのだ。饅頭をはじめ、上生菓子、きんとん、餅や求肥で包んだ菓子も一律約 500 円。さすがに京の菓子は高めである。



宿に帰ると片田さんと窪田さんが待っていた。

チェックインを済ませ、女性 4 名は洋室と和室に、男性 7 名は洋室と広間に部屋割りをした。広間にはトイレが二ヶ所あり便利な部屋であった。

風呂に入り、17 時半に夕食、ホテル風でも宿坊なので禁酒かと思ったら可であったので驚いた。また、家康ゆかりの夕食は精進料理ではなく、鴨や魚を使ったものであった。鯛の天ぷらもあったと思うが、家康とは違い腹痛には至らなかった。根来塗だろうか、朱塗りの椀での料理に有難さが伝わってくる。その後、広間でお茶会を実施。金沢の和菓子のレベルが高いために、買い求めた菓子はさほどでもなかった。しかしお茶会自身はあれやこれやで楽しい時間が過ぎて行った。

翌朝(14 日)、5 時 40 分にロビーに集合、まだ明けやらぬ寒気漂う薄闇の中を本堂に移動。これから勤行に参加するのだ。多くの僧による声明が心地よい。さすがに智積院は本山だけあって、修行僧も多くいた。次いで明王殿に移動した。ここは護摩木を焚き太鼓を打ち鳴らすなど炎と音の饗宴、本堂の勤行が「静」ならば明王殿のはまさに「動」なのだ。約 1 時間の勤行を終え外に出るとすっかり夜が明けていた。



智積院の写真集



僧の案内で境内を拝観。説明付きで拝観できる

のは宿泊者の特権だ。庭園は「東山随一の庭園」「利休好みの庭園」といわれているらしい。園内には入ることが出来ないが、山を利用しているので高低差が大きく変化に富んでいる。しかも大書院の縁側に坐して眺められるのがうれしい。

宿に帰って精進料理の朝食。我が家の朝食に比べると豪華である。まだ時間があるので、長谷川等伯・久蔵親子の国宝作品を収蔵館で鑑賞し、再度大書院に入りゆっくりと時間に追われることなく庭園や障壁画を眺めた。宿泊者は無料だった。



一休寺の写真集

条 宿を10時に出発、京都郊外の一休寺に向かう。途中、創業70年という「井上製パン」で昼食を購入、京阪七条駅10時半頃の京阪電車に乗り、丹波橋駅で近鉄に乗り換え、新田辺駅には11時頃着いた。駅前に一休さんのオブジェがあり記念撮影。10期の高田さんが車で駅まできてくれたので向さんと井上さんと手荷物を乗せてもらった。車中の女性三人の心はきっと学生時代に戻っているに違いなかった。

駅から一休寺までは距離にして30分強だが我々は11:34発のバスを待った。バスだと遠回りをしても10分強で運んでくれるからだ。一休寺バス停で下車、一旦、一休寺の前を通り過ぎ、薪(タチ)神社まで行く。ここには児童公園もあるので、春の日差しを浴びながらの昼食とした。



一休寺の方丈には、南北朝、室町、江戸期の3幅の涅槃図が掛けられていた。釈迦の命日が2月15日であるが、ここでは旧暦をほぼ守り一ヶ月遅れで実施していた。特別企画でも拝観料は500円といつものと同じであった。京都市中と違い、ここではこんな日でも比較的閑散としていた。方丈庭園や境内をゆっくりと見て回った。ここではやっと寒緋桜が咲き始めていた。

京田辺には約3時間半居たのかな。高田さんとは近鉄新田辺駅で別れ、我々は京都に戻った。

いちご会 秋の部 in 湯の山温泉

報告者 窪田安英

- ・実施日 2024 10/1(火)～2(水)
- ・場 所 湯の山温泉(三重県御在所岳山麓)
- ・参加者 13名

畔山、井上、井上k、加藤、加藤s、上村、北川、窪田、杉森、杉森e、向、向s、森川



・報告

会のメンバーもはや喜寿前後(ご夫婦での参加もあり)となりましたので温泉と食事はもちろんですが、移動条件も重要な要素となっています。

そのようななか、2024年秋はいちご会東海支部(幹事長:杉森、幹事:杉森悦、森川、窪田)で企画運営をしました。

約5か月前の5/10に幹事長から幹事への基本企画書の提案メールがありました。それについて移動の利便性、オプションを含めた景色等の魅力度の観点から当初案を変更、5/22に二日目のオプションも含めて決定。この間の打ち合わせは気心が知れた4人ということもあって遠慮なし・本音での建設的な意見・提案を全てメールのみで実施。

4か月前の5/29に開催日程が行楽・イベントのハイシーズンということもあって、いちご会全メンバーに日程の確保のお願いも兼ねて開催案内(初報)をメール、但し参加可否の返信期限は先の予定が不明な方が大多数と思われるので余裕の9/10とした。また6/3にはKUWV近畿支部の掲示板に上記内容をアップ完了しました。このサービスは探し物に手を焼く・物忘れの年頃になった者としては助かります。

3か月前、8/1～2に幹事長の杉森君ご夫妻が交通手段の詳細、宿泊を伴う現地現物の調査・打合せを実施された。その情報をもとに天候不順時のオプション対応を含め詳細を決定。

約1.5か月前の8/19に第2報の全員への詳細案内をメール。その後参加者の確定をしました。

さてここからは、二日間の行動および活動内容振り返り、その概要を紹介します。



希望荘の写真集

集合場所は、名古屋駅の新幹線改札近くの待ち合わせスポットとして名古屋では知られている通称「銀の時計」としました。参加者は基本的に新幹線を利用して名古屋へ移動でしようし、また、幹事団としても、なかなか会えないメンバーと可能な限り長時間一緒にいて積もる話、情報交換ができるからです。次に JR 名古屋から近鉄名古屋への移動も、地元人でもほとんど知らない迷路にあるエレベーターを利用しました。つまり楽になる文明の利器は使うべしです。

四日市駅にて湯の山線に乗り換えたら、畔山君がジョインしました。今回は都合により宴前までの日帰りとのことでしたが元気でした。終点湯の山温泉駅からはホテルの迎バスに乗り約 10 分の山岳ドライブ、ホテルの山上館に到着。そこで金沢からの車移動組の井上夫妻および向夫妻と合流。チェックイン後ケーブルカーにて本館へ移動。ここでは早着サービスとしてフルーツの盛合せとドリンクサービスがあり、しばしの歓談。ここでこの鈴鹿国定公園内にある宿を簡単紹介を。名称は「希望荘」でまだ全国 30 数施設しか認定されていない三重県初でもある厚生労働省認定の“温泉利用プログラム型健康増進施設”とのこと。しかし浴用適応症の表示は高血圧症、神経痛等の温泉施設と同じようで相違点はありませんが、我々の年代には嬉しい項目が表示されているので問題はありません。



部屋割は女性専用、幹事兼談話室兼お茶会用の多目的用、残りのメンバー用の 3 つです。いちご会の定番項目の一つは各地の名物・お菓子を持ち寄り、各自持参の茶碗と加藤君の山用の茶碗（例えるならマトリョーシカのように幾つかがコンパクトに収まっている）にて森川宗匠のお点前で抹

茶をいただきます。二つ目は宴の際の近況報告です。移動中、部屋でも会話が弾んでいたにもかかわらず生命起源の勉強もしている上村君、長年にわたる大作の執筆を完了させた北川君など多分野にわたる話もあり、所定時間ぎりぎりまでとなりホテルの会場担当者から苦言をいただきました。



二日目、伊勢湾からのご来光が部屋から見え、天気が良かったこともあって最高でした。

この日はオプションとは言っても日帰りの宿泊者全員が御在所岳参加です。まずは湯の山温泉駅から山上公園



駅へは御在所ロープウェイにて。途 御在所岳の写真集中、日本一高い白鉄塔（6 号鉄塔）付近では鷹見岩と恵比寿岩、また、山上駅手前では大黒岩など奇岩・珍岩が多数鎮座しているのを見ることができました、ただ紅葉には少し早すぎたようです。

ゴンドラを下車後まず朝陽台広場へ。少しガストって北アルプス、名古屋市街は見えませんが気持ちの良い秋でした。次に観光リフトにて御在所岳頂上へ。そこには 1,212m の一等三角点がありました。記念写真をパチリ。元気印の猛者連中は望湖台と呼ばれている岩場まで足を延ばし琵琶湖などの景色を堪能したとか。ここで予定のある向夫妻が別れ、残りは展望レストラン「ナチュラル」移動しランチ。御在所カレーラーメンや御在所定食等、各人好みの昼食を食べました。その後、再びロープウェイにて下山。湯の山温泉のバス停にては、伊勢神宮に向けて車移動の井上夫妻が別れ、残りはバスで近鉄湯の山温泉駅へ移動、四日市経由名古屋駅着。そこでお土産調達などして無事解散しました。

開催数日前には台風が来る情報もあり心配しましたが、二日間とも素晴らしい天気になり大変楽しひと時をすごすことが出来ました。

次回は向夫妻、井上夫妻が幹事です。今後もいちご会が長く続けられるよう祈念します。



御在所岳の展望

本誌・昨年号までに続いて、今回も、近年の外国での写真等を中心に紹介させていただきます。異例な版組みですが、今回のオマーンについては、その輝かしい歴史と人々、自然について、まず、30年前の小稿2頁をご覧ください。（次頁とも、古今書院の月刊『地理』1995.9月増刊『世界の山やま／アジア・アフリカ。オマーン編』長岡稿の転載。）

アラビア半島の変動帯

39 アフダル山脈 (オマーン)

アラビア半島中央部は、ルブ アル ハーリ（空白地帯の意）砂漠と呼ばれる広大な砂漠地帯が広がる（ただしオマーンでは砂地はほとんどなく、水がないだけの礫原が多いので礫漠といったほうが適切）。半島の西岸には、アフリカ大地溝帯と同じく、新生代第三紀以降に開き始めた紅海が広がっているが、この海岸方向（西）に向かって、アラビア橋状地を形成する古い安定地塊はきわめてなだらかに標高を上げて 3000 m 以上の山やまを連ねる山地となり、最後は比較的急傾斜で海岸に達する。半島南方のアデン湾でも同様である。一方、半島東部のオマーン湾岸には、対岸イランのザグロス山脈と同様に、中生代から新生代のアルプス造山運動による 3000 m 近い狭長な脊梁山脈が連なる。これらの山地では、南部を中心に夏の季節風が降雨をもたらし、緑豊かな風景となっている地もある。

現在のオマーンを中心とする地域は、BC 30 世紀ごろからマカンと呼ばれており、メソポタミアへの銅の供給および優秀な航海者の地として知られていた。銅精錬跡もあるが、精錬が行われてい



アフダル山脈を横断する谷の側面支谷。古い砦の背後は比高 2000 m の単斜構造の山。 長岡正利撮影 81. 秋



山岳地域の小集落での子供たち。長岡正利撮影 81. 秋

たとすると、当時のこの地方にはレバノン杉のような巨樹が茂っていたのかもしれない。

時代は降って、10 世紀にはオマーンは全イスラムにおける最も繁栄をきわめた港として知られた。この時期、オマーンの海上勢力は全インド洋の交



アフダル山脈中の小盆地。長岡正利撮影 82. 秋

易を支配し、そのダウ船は中国の広東にまで達した。

1498年のバスコ・ダ・ガマによる喜望峯廻りのインド航路の発見にもオマーン人が水先案内の役割を果たしたと言われている。しかし、それ以降のポルトガルの侵攻、ヨーロッパ諸国による東西交易の発達、さらにスエズ運河経由による蒸気船の運行によって、オマーンは閉鎖的な経済状態となった。なお、1970年以降は、現国王による治政下で内政・外交における改革が進められ、石油収入もあいまって近代的な国づくりが進んでいる。

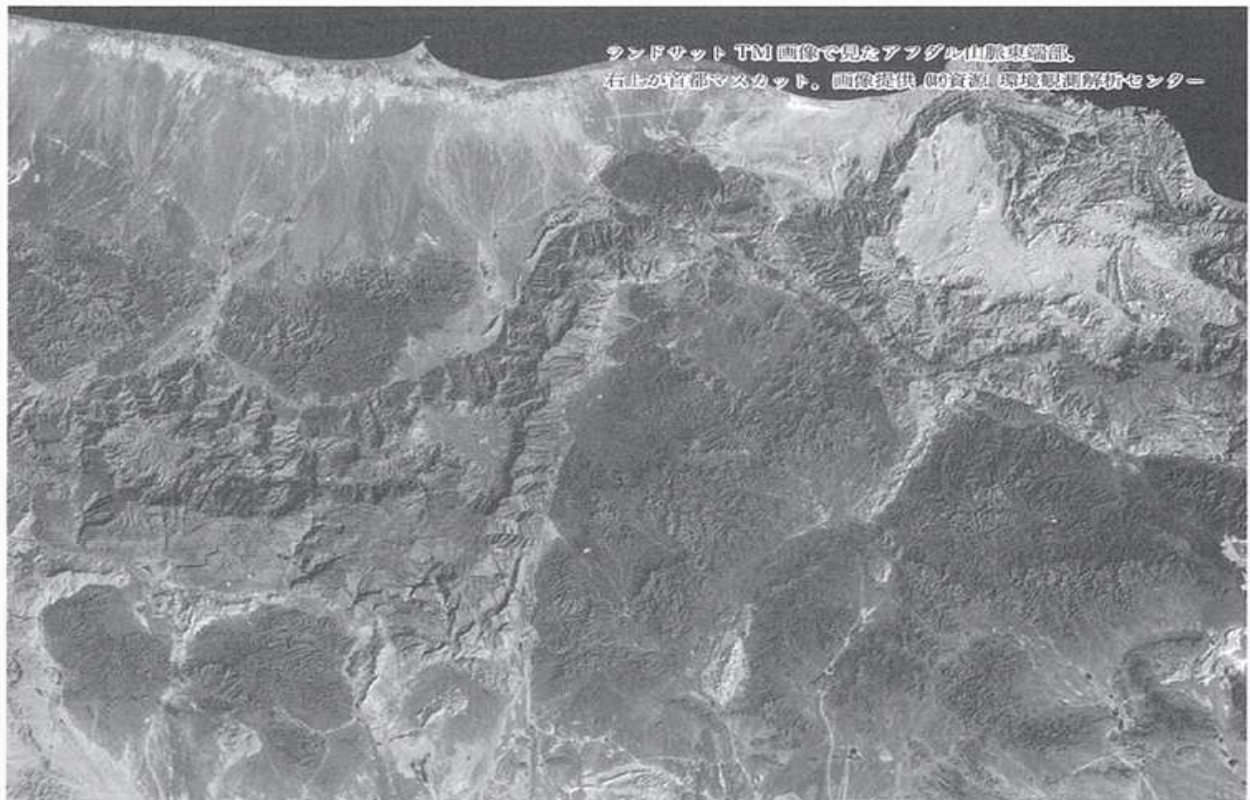
オマーンの気候は熱帯乾燥気候に属する。首都マスカットの冬は日本の晩夏程度だが、夏は最高気温が連日のように40度を超え、海に近いことから湿度も高く、日本人にとっては耐えがたい暑さとなる。年間降水量は100mm程度だが変動が激しく、年に数回はどこかで局地的な洪水被害が起きる。山岳地域では時には降雪もある。

オマーンを特徴づける地形は、北東側のオマーン湾沿いにゆるく湾曲してつらなる平野と、背後のアフダル山脈(またはオマーン山脈)、その内陸側に広がるルブ・アル・ハリー砂漠である。アフダル山脈の稜線部は、山脈を形成した背斜軸に一致しており、軸にそって鍋状の小盆地が点在する。

山脈中央部を構成するのは石灰岩を主とする古・中生層であり、見事な単斜構造をなしている。山脈の両側の広い地域は低い山地で、異地性のオフィオライト(かつて海洋性地殻を構成していた塩基性火成岩がプレート運動によって移動してきたもの)由来の礫が、強い陽射しに焼かれて鉄錆色の異様な色調となっている。

アフダル山脈の最高峰は標高2980mのジャバル・シャムス(太陽の峰の意;下写真の左下縁)であるが、この国の人びとにとっては登山対象とはなっていない。山脈の北から近づくのは、鍋状の盆地の急崖をはいあがることになるので容易でない。南からは緩傾斜の斜面をたどることができる。ただし、古くからの山越えの道のほかは、そもそも登山道などない。

近代化が急速にすすむ首都近郊とは対比的に、山間部では過疎化がすすんでいるが、今だに古いアラブの伝統と生活が残されている。山深い集落を訪れれば誰であれ、腰に剣を佩(はい)した長老から客人として遇される。まず甘味な干ナツメヤシ(デーツ)、次いでカルダモンの香り豊かな濃いアラブ風コーヒー、そして場合によっては食事と、アラブ・ホスピタリティといわれる古いアラブの美しい風習にふれることができる。(長岡正利)

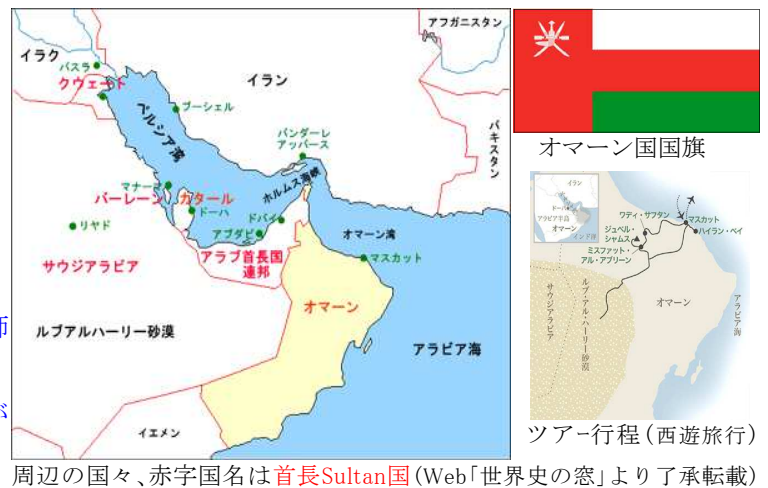


ランドサット TM 画像で見たアフダル山脈東端部。
右上が首都マスカット。画像提供: 財団法人 環境視察解析センター

40年程前(20歳台後半)に、JICA(当時、「国際協力事業団」)の仕事で、アラビア半島東端のオマーン国に5回行ったのですが、既に77歳となった小生、行けるうちに今一度、同国を見んものと、今年2月に40数年ぶりに出かけて来ました。当時は、国を開いて10年。新しい国王(スルタン)のもとで、明治の日本を想わせるような、気概に満ちた国でした。かつては、家長は腰に短剣を佩して颯爽と(3頁目に)。今、その様な姿の人を見かけることはさすがにありませんでした。その自然は、当時も今も、街を離れれば、どこまでも続く沙漠と、碧空の下、山々。大きな砂丘や山歩きもしつつ、彼の地の自然を堪能して参りました。

今回の旅は、「西遊旅行」社企画のツアーです。行程内容は、首都マスカット周辺と湾岸沿いに連なる山地。内陸沙漠です。地域の概況は、前2ページに述べたとおりですので、それをご覧頂けた前提で、以下、掲出写真に沿ってのご説明を。

なお、これまでの小稿では、今回同様の連載について、副題に通し番号を附しておりました。2022年版では、「その14」として、ロシア・カムチャッカへのクルーズ 船添乗講師の旅。2023年版では番号無し2編でしたが、中国貴州省招待撮影行が「15」。ネパール大地震関連のランタン谷行きが「16」。今回、本号のオマーンが「17」となります。



上写真は、オマーンの首都・マスカットMuscatに近い空港到着の直前。40数年前（以下、本稿では「昔」と表記）には砂礫原であった地が、見事な住宅地に変貌。国際空港から、旧王宮のあるマスカットとその手前の繁華街マトラMuttrahに至る前には、高貴な乳香Frankincenseを焚く香炉のような建造物なども。右上の2枚は、昔から既に4車線で、英国の保護国(同盟関係の)時代を想わせる、瀟洒な海岸通り。

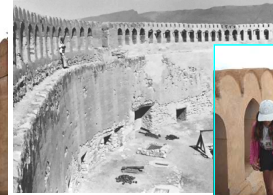


昔は、一旦入り込んでしまうと迷路であったマトラ・スーク(市場)は、整然と区画整理された市街地の市場となって、もう迷う心配はなく、賑やかな夜の街を人々がそぞろ歩き。中央上は昔(カブース国王時代；次ページ詳述)の王宮で、この一帯では威厳の中にも親しみの景観。右は、綺麗に公園化された現在。現・王宮のことは次ページで写真紹介しますが、今見えるのは道路沿いの、外壁のみ。



昔、マトラ海岸に放置されていた巨大なダウ船。当時聞いた話では、「200年前に、この船で渡洋航海して、米国へ大使を送った。」との由。17～19世紀にはインド洋全域を商圈とし、東アフリカ沿岸のザンジバルを勢力下に置いたオマーンのダウ船ですが、今は、観光船(右写真)としての活躍だけ。昔は、海岸には青銅製の大砲(大筒)が散乱。この沖で難破した交易船のもののか？ 昔(上中央写真)も今も、海産物は豊かで、見事なクロマグロも。かつては露天取引だったその地に、今は、大勢で賑わう立派な市場が完成。

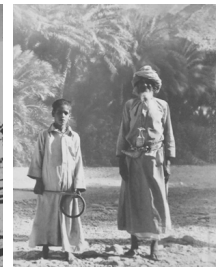




古都・ニズワの城塞と、昔の塔屋内部。今は観光客用の安全策が。

城塞入口の受付嬢

マスカットから南西170km程の古都・ニズワNizwa(かつてイマームが治め、スルタンとは対立)への経路上で。その西側には造山運動(プレート衝突)により隆起したハジャー山脈(写真の辺りでは石灰岩)が続き、山麓には陽に焼けたオフィオライトが分布する。それは、上記プレート衝突に先立って、上部マントルが衝上してきたもの(サマイルナッペ Samail Nappe)である。山麓礫原には化石に見紛う石灰岩礫があるが、実は、夜の結露が礫表面を流下しつつ溶蝕した線状の跡。(私考、2万年程?かけて)



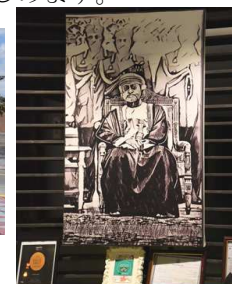
上写真は、昔のニズワ。前方に、上で紹介の城塞が。当時でも、腰に剣を佩する人は既に少数だった。山岳地域のミスファMisfat al-Abriyynでのご夫婦。今は、この様な姿が普通で、多くはないが女性も普段から外出。聚落内のデーツ(ナツメ椰子)林には、灌漑用の水路Faraj(地下導水路もあり)がある。

上右写真は、最高峰 Jabal Shams(ca.3018m)を望見する展望地。翌日の雨で、登頂はならず。



上は、昔の沙漠の人で、目標地が見えなくとも確実に歩を。今はGPS車で。砂丘を廻り込んで、砂丘の間にテント泊。午後になると風が出て、細かな飛砂が。右は遙かな砂丘地への落日。気温は急に低下。

www.kinki.kuwv.org/glut/20240212 をご覧に。11期・加藤様制作による、砂丘からの全周眺望が愉しめます。



現王室所蔵の巨大外航船と、新王宮を囲む長大な堀。

1970年に即位し、国民に敬愛されつつ、オマーン国を繁栄に導いた国王(スルタン)カブース Qaboos bin Said 殿下でしたが、2020年1月に崩御(病没)なされた。左上写真がその若き日。(JICA調査団として拝領) かつての王宮は前ページ紹介のように広く公園化されて、国民の憩いの場に(左上写真)。現国王には、遺された遺言開封で、いとこのハイサムHaitham bin Tariq 氏が即位された。右上が現国王を描いたパネル(マトラヘル・フロントで)。右は、その禅譲図(想像図、同ホテルで。)

拙稿は、従来同様に、ご了解を頂いての、写真沢山で構成しております。写真は、Web 上で、各ページを A3 でご覧頂くことを前提の解像度です。40 数年を隔てての写真紹介が多く、説明が細分化されたことをお詫びします。



7 月 25 日から 27 日にかけて、白山の南竜ヶ馬場に 13 期から 17 期までの 13 名が集まりました。

参加者

13 期 柴田茂樹・柴田訓子、14 期 清家雅幸、15 期 上馬康生・奥名正啓・坂尻忠秀・佐野哲雄・舟田節子・増田富雄、16 期 中野淳一・山内政司、17 期 小間八郎・小間幸美

計 画

近年、同期の坂尻さんと山歩きやスキーをよくしています。白山周辺のみならず昨年は雪の西穂高独標へ、今年は連休明けに剣御前小舎に泊まり立山三山を、6 月上旬に八ヶ岳の赤岳から硫黄岳を歩きました。山で泊まった時など、ワングル学生時代のことがよく話題となります。そこで 15 期の前後の期で白山の南竜ヶ馬場に集まり、夏山を楽しむとともに旧交を温めたり親交を深めたりできればと 2 人で計画したわけです。ケビン 3 室貸し切り 3 日間出入り自由とし、2 日目は別山や白山の山頂など希望するところへ一緒に行けるようにしました。

実 施

それぞれの期の中で連絡してもらい参加者を募ったところ、当初 16 名からの申し込みがありましたが、仕事で都合がつかない、直前に同居家族の新型コロナ感染、体調不良で下山のそれぞれ 3 名を除く 13 名となりました。

7 月 25 日

別当出合へは各地から自家用車に相乗りで集まり、到着時刻により 3 組に分かれて出発しました。曇りから霧の天気のため、センジュガンピやタマガワホトトギス、ハクサンフウロ、ニッコウキスゲなどの花の前で立ち止まり、写真を撮りながらゆっくり登りました。

南竜に到着してからはそれぞれ、ケビンで談笑したり、周辺を散策したり、この日から自然解説員として南竜に詰めていた奥名さんの観察会に参加したりして過ごしました。南竜山荘での夕食後にも奥名さんのスライドによる高山植物などの解説活動に参加して、ケ

ビンに戻って談笑にふけりました。なお、小間さん夫妻はこの日は室堂に宿泊でした。



26 日朝、南竜山荘前で

7 月 26 日

前日の天気から打って変わって朝から晴天のなか、行動の用意をして南竜山荘に集まり 6 時からの朝食後、トンビ岩コースへ向かう組と別山へ向かう組、南竜にとどまる組に分かれました。

トンビ岩コースでは、南竜ヶ馬場と別山、荒島岳、御嶽山などを眺め、咲き始めの痛んでいないハクサン



26 日、トンビ岩コースで

コザクラやクロユリ、チングルマなどの高山植物を楽しみながら進みました。トンビ岩まで残雪はなく、万才谷上部の雪渓も後退して、例年に比べ残雪の少なさが目立ちました。

室堂到着後、この日に下山の中野さんと山内さん、エコーラインを南竜へ下る佐野さんと舟田さんと別れ、柴田さん夫妻と 3 人で御前峰からお池めぐりへと向かいました。室堂ではガスっていた御前峰は着くころには晴れ上がり、山頂からの展望、お池めぐりの道沿いに咲く高山植物や逃げないイワヒバリなどを楽しみました。



26 日、白山山頂で



26 日、山頂より大汝峰と剣ヶ峰

別山へは清家さんと坂尻さん、小間さん夫妻が向かい、奥名さんと増田さんは南竜に滞在でした。

この日も南竜山荘での夕食後は、ケビンの1室での談笑が続きました。参加者の昔や今の様々な話に、感心したり共感したり驚かされたりしました。ワンゲルという繋がりの中、個性豊かな各人の人生経験にじみ出る話の連続でした。



26 日、南竜山荘で夕食

7 月 27 日

朝食後、より遠方へ帰る 6 人を 7 時前に見送り、金



26 日夜、南竜ケビンで各人の経験談などを聞く

沢へ戻る 4 人はケビン内の後始末をしてから、あと 1 日自然解説員として南竜に残る奥名さんと別れて出発しました。途中、南竜道と砂防新道の分岐付近ではシモツケソウなどの開花が進んで、2 日前より色づきのよいお花畑となっていました。この日は土曜日で登山者が多く、かなりのスローペースでの下山となり、途中で先行の組と一緒に 11 時半ころに別当出合に着きました。



27 日、砂防新道・南竜道分岐のお花畑

解散後、それぞれ勝山と吉野谷の温泉で汗を流し、昼食をとりながら山行をふり返り、帰路につきました。

おわりに

白山ではよく歩き、南竜ケビンではよく笑って、心身のリフレッシュになりました。70 歳を超えても、みなさん自分に合った歩き方で山を楽しんでいるようです。今回、思い出深い山行ができ、改めて金沢大学ワンダーフォーゲル部の繋がり感謝するとともに、このような集まりが、これからも続けられたらと思っています。

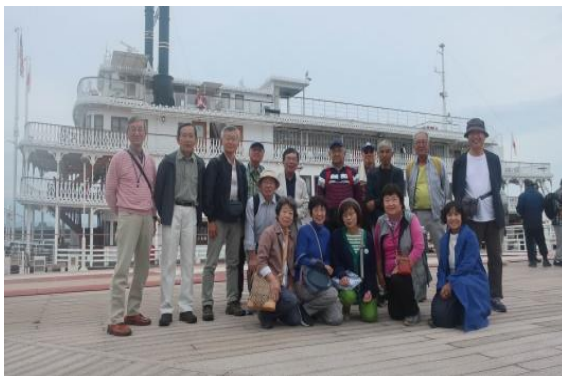
今年も15期会 古都大津にて

(実施日 2024年10月26日～27日)

15期 三宅 毅

元日早々に発生した「能登半島地震」に強い驚きと衝撃を受けて始まった2024年。私たち15期では穴水町に住む坂尻さんが幸いにも住居の被害は少なかったものの生活インフラの回復が遅れ苦労されました。コロナ禍で中止となった2020年、2021年を除き毎年続いていた15期会も開催出来るか心配されましたが無事昨年に続き「今年も15期会」を滋賀県大津市にて開催しました。

10月26日9時45分JR大津駅前に16人集合。この辺り一帯は2024年の本屋大賞受賞作「成瀬は天下を取りにいく」の舞台になっているので至る所に可愛いポスターが貼ってあります。「びわこ浜大津駅」前にある今夜の宿泊先「ホテルブルーレーク大津」で手荷物を預けていよいよ15期会のスタート。まずは「大津港」から外輪船「ミシガン」に乗船し90分間のクルーズに出発。デッキで昼食のランチボックスを食べながら雄大なびわ湖や比叡山、比良山系の景色とおしゃべりを楽しみました。



ミシガンクルーズ乗り場

ミシガンを下船し「三井寺（園城寺）」に向けウォーキング。途中、大津絵が飾られた道を歩き20分で「三井寺仁王門」に到着。三井寺は紫式部一族には縁の深いお寺で式部の父、為時や兄弟、親戚が三井寺の僧侶になったそうです。

大河ドラマ「光る君へ」放映を記念して三井寺所蔵の関連する品が公開されていました。境内に入り「三井の晩鐘」（近江八景）で知られる巨大な鐘を「じゃんけん」で勝った坂尻さんが代表して突きみんなで合掌。国宝の「金堂」では多数の重要文化財指定の仏像などを見学。次に天智・天武・持統天皇の三天皇の産湯に使われた

と言われる霊泉「閼伽井屋」（あかいや）を見学。弁慶が延暦寺まで引きずり上げたと言われる大きな鐘（弁慶鐘）が安置されている「霊鐘堂」を見学。

最後に西国第14番札所「観音堂」を拝観。眼下に広がる雄大なびわ湖と大津の街を眺めながら三井寺名物「力餅」を食べました。



三井寺仁王門前

三井寺を出て徒歩5分程で「大津市歴史博物館」へ。特集展示「源氏物語と大津」が開催されており今の大津は紫式部と源氏物語一色の感じです。約1時間余りゆっくり展示物を鑑賞したあと京阪電鉄「大津市役所前駅」へ。ここから京阪電車に乗っていよいよ夕食会場の「近江牛かね吉」に向かいます。電車は「光る君へ」がラッピングされた可愛い路面電車で市街を走る姿は風情があります。

京阪膳所駅から「ときめき坂」を湖岸に下り17時に「近江牛かね吉」に到着。所要があって宴会のみ参加の鈴木さんが茨木から駆けつけてくれて宴会開始。サーロイン150gとすき焼き100gをいただきました。さすがに近江牛！美味しかったです。飲み放題のコースだったのですが皆さん余り飲みませんでした。年のためでしょうか。健康のためでしょうか。

二時間余りの宴会。皆さんからの近況報告。最後に松縄さんのピアノ演奏だったのですが調律が出来ていなくて途中で中止となり残念でした。ワイワイがやがや話しながら膳所駅にもどり午後8時ホテルに帰りました。ホテルでは恒例の二次会。今回はホテルの会議室を借りて一時間半ほど賑やかに談話しました。

コロナに感染した。転んで骨折した。介護が心配など年齢にふさわしいそれなりの話が弾みました。



近江牛かね吉

翌10月27日は京阪電車に乗って「びわこ浜大津駅」から「比叡山坂本駅」へ向かう。松下さんは所要があり早朝にホテルを出発。忙しい所を良く来てくれました。

坂本駅からは日吉馬場通りを15分ほど歩いて「ケーブル坂本駅」に向かいます。日本一長いケーブルに乗って10分で「ケーブル延暦寺駅」到着。

「延暦寺」では、まず国宝「根本中堂」へ。現在10年をかけた大改修中でしたが屋根の葺き替えなどの工事現場を間近に見られました。ちょうど秋田から来た団体のお参りがあったためにお堂の奥までは入れませんでした。

しかし、ちょうどこのお参りのために来られた「天台座主」のお姿を見る事が出来ました。100歳です。15期の人みなにご利益があればいいですね。



比叡山 根本中堂

延暦寺では東塔エリアの「大講堂」や「阿弥陀堂」などを拝観しました。坂道や階段が多く結構歩き疲れました。参拝を終わり「ケーブル延暦寺駅」に11時15分頃には戻ったのですが舟田さんが帰って来ません。みんな心配で携帯電話をしたりしましたが繋がりにません。

暫らくして舟田さんが何事もなく普通に帰ってきました。なんと「比叡山山頂」(大比叡 848m)まで登ってきたと言うのです。みんな驚きました。さすが節ちゃんと！無事予定通り12時発のケーブルに乗って「ケーブル坂本駅」に降りました。



比叡山登頂証抛写真

昼食は「本家 鶴来そば」の二階お座敷で天ざるそばをいただきました。かやくご飯も付いています。以前ならビールや日本酒を飲む人も多かったのですが二人だけでした。

昼食も終わりいよいよ穴太衆(あのうしゅう)石積の街。「重伝建 坂本」の街歩きです。

全国の重伝建を巡っている松林さんからもリクエストがありました。まずは「御殿馬場」を通り「滋賀院門跡」まで歩きました。延暦寺の本坊で江戸時代まで天台座主の居所だったそうです。石垣と白壁が美しいです。立派な石垣を見ながら坂道を歩き「慈眼堂」へ。

「十三体石仏群」を見学。坂道も多いのですが天気が良く暑かったためかバテ気味の人も出てきました。

「鶴来そば」を出てから40分程で何とか「日吉大社」へ着きました。「日吉大社」は全国3800社余りある「山王さん」の総本宮です。



滋賀院門跡前

広大な日吉大社の境内に入り国宝「西本宮本殿」「東本宮本殿」などを参拝しました。

「日吉大社」を出てすぐに15期会最後の目的地「旧竹林院」の入り口に着く。

ここは延暦寺の高僧の隠居坊「里坊」の一つで広い座敷から眺める1000坪の広大な庭園が美しい。この座敷で仰向けになってしばらく休みました。奥名さんはずっと寝ていたらしく注意されたようです。築山になった庭園の周りを散歩して竹林院を後にしました。



座卓に映り込んだ庭園

いよいよラスト。解散場所の「JR 比叡山坂本駅」に向います。重伝建の街並みを歩いて20分ほどで到着し計画どおり15時30分に解散しました。

前日まで雨の予報でしたのでどうなる事かと心配しましたが傘を出すこともありませんでした。なんとそれぞれが帰路に着いたあと雨が降り出しました。舟田さんからのメールの一部です。

「サンダーバードに乗って雨の車窓に。なんと贅沢な散策が出来たことかと」。

天は私達15期に素敵な2日間をプレゼントしてくれました。メンバーそれぞれの日頃の行いが大変良かったのでしょね。最後に写真撮影を担当して下さいった宇野さん、会計をして下さった間所美智代さん、宇野あつこさん有難うございました。来年は増田さん幹事で静岡です。また元気に会いましょう。



代表で坂尻さんが撞いた

「座っていて下さい！」

2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分、某グループホーム二階での保安業務についていた私は、そう叫んでいるしかありませんでした。

メディアは、撮りためたお正月番組を流すだけの、最低限のスタッフ体制でいたのでしょう。TV は映り続けていましたが、地元といえども、「津波の怖れがあります。逃げて下さい！」の連呼以上の情報は、入らず…でした。

20 時、リフォーム済みで大ごとにならないはずの我が家にいそいそ帰宅し、無事な夫を確認。「見て来いや」に、元々、半物置化している「節子の部屋」を覗くと、大散乱状態になっていました。(後日、「一部損」に査定されました。)

ざっと親族の無事を確かめた後は、さて、どこまでを安否確認したものやら？5 日になって、篠笛の初稽古で、ようやく外出しました。師匠宅は卯辰山寺院群を通っての山頂近く…崩れた石垣、土堀、累々と倒れた墓石。

ほんの一部はお盆を期に修復されたものの、ほとんどは、今も、修復されてはいません。



《東山 真成寺横の石垣 2024.1.5》

恒例、一年の山シリーズへいきます。今回は、以下のようなリストアップになりました。

- 11 月号…小豆島 星ヶ城山
- 12 月号…金時山
- 1 月号…クレイドルマウンテン
- 2 月号…太郎坊山他
- 3 月号…アンコールワット

- 4 月号…文殊山
- 5 月号…天上山
- 6 月号…尾瀬ヶ原・尾瀬沼
- 7 月号…飯豊山
- 8 月号…鹿島槍ヶ岳
- 9 月号…剣岳
- 10 月号…横倉山



《タカハリ ディランとミナピン氷河 2005.8.10》

「小豆島」…星ヶ城山 816m は、瀬戸内海の島々の最高峰です。大阪城の石垣も産出した花崗岩の島ですが、全国で 10 万柱に及ぶ三角点の石柱の 9 割がこの産だそうです。

小豆島に関しては、オリーブと、壺井栄の『二十四の瞳』のみが知識。三奇勝の一つ「寒霞溪」が、島の崖地であるのも含め、実に知らないことばかり。ロープウェイを避け、裏 8 景をめめつつ三笠山へ登り、佐々木信胤の山城跡と言われる星ヶ城山へ回って、表 12 景を降りました。小豆島八十八ヶ所は岩窟寺院が多く、そこが「八日目の蟬」のロケ地にもなっていました。

この時は、まだコロナ対策をとっていたのですが、島内巡りに使わざるをえなかった「マイクロバス」の「密」で大量感染がおきたようでした。

「金時山」…東京発忘年山行に参加する際、一日早出をして、「1213m の山に 12 月 13 日に」のノリで登った、箱根外輪山の最高峰です。

新田次郎の「強力伝」のモデルになった小宮山正氏の、娘の妙子さんが経営する金時茶屋が、頂上にあります。昭和天皇が「金時娘」と命名されたことからの看板娘は、13 歳から茶屋の経営を引き継いだそうです。

「(私の顔を見ただけで) 買わないんだったら出てって！」と威勢のよかった彼女も、店を息子に譲り、施設入所をされたとか。麓に路線バスが 2 社入っていて、縦走しやすいです。

「クレイドルマウンテン」…冬は基本的に花もないので、海外の山を紹介する機会にしています。オーストラリアの南に浮かぶ島タスマニアの、氷河に削られた揺りかご状の山で、周辺トレッキング路を歩きました。学習塾閉室・非常勤講師開始記念のつमりのこの時は春休み中に催行決定ならよし…の選択でした。

いわゆる全北区とされる植物相だけしか見たことがなかったので、オーストラリア区の植物群は、まさに異世界でした。もちろん有袋類ばかりであり、動物園はなくて保護施設ばかり。さらには上陸してくるフェアリーペンギン。西には海しかないゆえ、「世界で最も水と空気のきれいな島」と言われれば、そうかも…。

「太郎坊山」…滋賀県、湖東の平野には、巨大カルデラの名残とされる丘陵や台地が点在します。そこに聖徳太子の伝承がからみ、岩山ゆえの、磐座信仰と神体山信仰発祥の地…の由来もからんだ太郎坊宮が鎮座しています。

お宮から続くハイキングコースには、米相場を伝えるための旗振りの岩塔があり、新幹線などの大動脈が走る展望が広がり、下れば、「万葉の森」のある蒲生野です。

350m 前後の峰の縦走は、体の鈍った春先向きです。

「アンコールワット」…WHO が急事態宣言終了としたのが、2023 年 5 月 5 日のこと。でも、まだ中国との障壁があって、小松空港発上海便による格安版アンコールワットの募集が掲載されたのが、12 月でした。「やっとコロナ前にまで戻ってきたんだ」の実感を持った途端に地震勃発。不謹慎にも瓦礫映像がダブってしまいました。

500 年にわたった繁栄ののちに、埋もれた遺跡は、150 年前に発見されました。修復されたものが、アンコールワットやアンコール・トムです。そのかたやにはスポアン（榕樹）がからんだ寺院や、修復しないまま公開としている遺跡…。周辺には「地雷注意」の看板が…。

いっこうに進まない瓦礫の撤去…。しかしながら、別の国では、瓦礫の山を今日も産み出し、かつ周囲はその横暴と悲惨を止められないのです。鬱が漂います。

「文殊山」…大昔、「泰澄太子ゆかりの山」の取材のために、やむなく登った低山(365m)でした。養老元年(717 年)に開山されたと伝承の、越前五山の一つです。



《ベン・メリアにて モデル撮影中 2014.3.26》

麓には広い駐車場が完備され、春の花の山としての人気を集めています。「北陸で登られた山ランキング 3 位」とは、誰がカウントしたのか？標高が低くても、縦走の場合には、車を回してもらえるツアー利用が便利です。

「天上山」…富士箱根伊豆国立公園の伊豆諸島で、現役火山も多い中、岩崎元郎の『新日本百名山』にも、田中澄江の『花の百名山』(NHK 放映版)にも選ばれているのが、神津島の天上山です。そんな知識もなかったのに、ツアーが出れば「行ってこなくては！」になります。

多様な植生があり、パイオニアとしてのオオシマツツジ（ヤマツツジの島嶼変異型）などが「緑の島」を形成しているのが有名です。神が集まる島とされたのは、黒曜石の産地も絡むようです。古代は、海ならこそどこへも繋がるのです。



《天上山 オオシマツツジによる緑の島 2023.4.25》

「尾瀬ヶ原・尾瀬沼」…ミズバショウなら白山麓のどこにもあり、わざわざ行かなくても…。しかし「天下の絶景」なるものをパスも、いかなものかと、結局、開山日に行ってきました。また、ちょうど機関誌の 100 号記念にあたっていましたので、「自然保護発祥

の地」とされる尾瀬が相応しいとも思ったのです。

何度ものダム開発計画や自動車道路建設計画の、阻止や中止に平野家三代は奔走します。三平峠に迫っていたブルドーザーは、環境庁初代大石長官の蛮勇的英断により、止められました。しかし、その報を聞くことなく、長靖氏は遭難凍死をしてしまいます。それは私が2回生だった冬のことでした。

かつての開発者側が、現在は「企業の社会的責任」として自然保護活動に取り組んでおり、このことにも、自然保護のたどった歴史が象徴されています。

「飯豊山」…入会したころの社会人山岳会はまだ若く、飯豊遠征などもやっていましたが、結局家族持ち女は参加できず。百名山を狙っての終盤に、やっと登れました。深田久弥も59歳の、百名山連載終了の直前に登りに行けた…とあり、「やっと」の感慨だけは重なりました。

宗教登山にちなむ地名や豊かな積雪による植物群は、白山に似ています。NHKの「日本百名山」放映は、どんどんバリエーション化していて、石転び沢からの登頂の方が紹介されていました。

「鹿島槍ヶ岳」…かつて、台風接近で赤岩尾根に下りてしまっていたため、「頂上を踏んでいない!」と、98山目としての登り直しに行った山です。

深田久弥は、「大好きな山」の容姿端麗さについて、特に紙面を使っているようです。確かに、遠望の中に鹿島槍を探していることは多いです。白馬山麓スキー場からの双耳峰は、素晴らしいですし、この山脈からの黒部の谷を挟んでの剣・立山も、絶景です。

昨年は、かつての1泊2日行程を、2泊3日にして歩き、「歳重ねて山河あり」とひとりごちてみました。

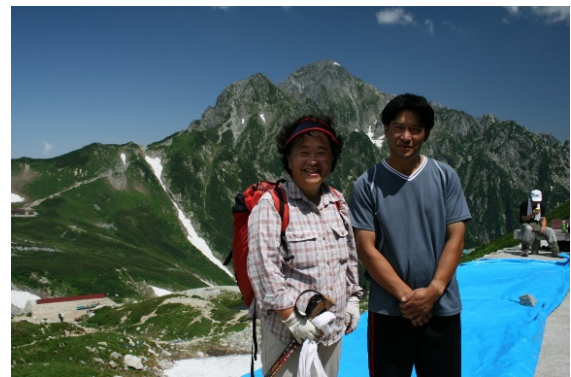
「剣岳」…一般コースの別山尾根と早月尾根のみが可、かつ経験値の私には、もちろん別格の山です。述べるほど、馬脚を露すだけ…なので、ネパールとの交流の話題に振りました。

芦峠寺の建設会社がカトマンズに支店をもち、シェルパのふるさとクンデ・クムジュン村の若者達を技術研修生として受け入れていました。石川ネパール協会の活動で、彼らとの交流ができ、日本語堪能な彼らをガイドにした、2000年の視察トレッキングでは、質問攻めの道中を楽しみました。

日本の夏山シーズンが、クンプのモンスーン時期に

あたり、双方に都合がよく、出稼ぎ兼登攀技術や救護技術訓練も行われています。8年後にも、剣沢で若者の一人と再会できました。

そんな2000年の初トレッキング時に、エヴェレストのアイスフォールでは、すでに工作済みで通行料をとっている事実や、シェルパが民族服や王族の服を着て、とか、16時間で登頂に成功している事実を知りました。日本では、協賛金を得たり、英雄視されたりしたいために、故意に曲げた報告や報道がなされているのです。以来、私の「山世界やヒマラヤ」報道に対する色眼鏡は、かかりっぱなしです。



《8年ぶりのアンヌール君と 剣沢 2008.8.9》



《佐川町のマンホールの蓋 2023.9.24》

「横倉山」…2023年度前期朝ドラ「らんまん」に登場した山です。

牧野富太郎について、「雑草という名の草はない」のフレーズの他には、山野草の命名者である…以上の知識を持ちませんでした。関連本も多く出ましたので、時代背景に、家庭事情、研究最前線での熾烈など、実に面白かったです。

横倉山は、牧野富太郎のフィールドといえる山ですが、恐竜化石が発見された石灰岩質の山であり、安徳天皇の陵墓参考地があり、そこに「ここは、滑落シーンを撮った所です。映らない場所に200人が控えてい

ました」といったロケ地の説明も加わりました。

「旬の山」のコオロギランが見られる場所は「押すな、踏むな」状態になっていました。

さて、8月末にて、「金沢ナカオ山岳会」は閉会となりました。ワングル現役が4年間として、ナカオ山岳会歴は40年。うち、何回目かの分裂をしてからも18年になりました。今回は、分裂後の2代目会長にあたる方が、「人はこの世に生まれて、必ず死ぬものである。金沢ナカオ山岳会も…」の遺文を託され、幕引きの責を負って逝かれました。

自らが「辞める」とするときには、それなりの理由やエネルギーが必要なもの…。なおかつ、その後もひきずってしまいます。こんな幕切れの仕方が、かえってありがたいのかもしれない。

郷土の山の調査に実績をあげた会でしたが、その分、縛りも多かった…分裂のお蔭で、自由な山行ができるようになりました。ちょうど子育て終了といえる時期であり、体力もまだあり「日本百名山」も「海外トレッキング」も楽しめました。また、デジタルに移り行く時代にさしかかってもしました。ポジフィルムは高価で、その後の保管、データ管理も大変でした。PCに取り込んで、その後を自在に加工でき、共有できる…は、山遊びを豊かにしました。

この「やまざと」の3号前あたりから、やたらと「老いと山とのすり合わせ」をテーマにしています。つまりは、加齢のジタバタをやっているのです。

加齢はいつの時代にもつきものですが、コロナ禍や地震のような事件がおきれば、下り坂の斜度がさらにきつくなります。でもそれは、引き際のけじめをつけ易くなった…ということかもしれません。

高齢登山者の事故を耳にするたび、それらは他山の石なのか…。ドジな「山仕舞い」をやる前に、いい思い出をたっぷりのままで…でも十分ではないか？

この夏は、猛暑籠りをして我が家年表をまとめていました。「〇〇はいったっけ？」が、すぐ調べられるように…の字引レベルです。行っておけば…の後悔のないほどに遊んできました。特に、子育て終了記念（末っ子が金大に入り、塾をバイト代わりに任せられた）とした2005年は、実によく飛び出していました。

4月のシッキムトレッキングではサブリーダーとし

ての谷口けいさんに出会い、2011年の講演会につながりました。



《我が家の玄関先で谷口けいさんと 2011.2.11》

8月には、カラコルムデビュー。10月には、29期深井君の後押しによる英断？で、ネパール・クンブでの28日間トレッキングにチャレンジ。主婦が軸足の私は、非正規仕事にしかタッチできませんでした。ならば、正規雇用なら決してやれないような旅をやりたい！…が、ゴーキョ・カラパタール・チュクンの三大展望地巡りでした。



《夕映えのローツェ南壁 チュクン 2005.11.14》

また、先の2000年の時点で、どうして、そんなにエヴェレストを見に行きたかったのかといえば…兄嫁の早逝で、母が主婦に返り咲いた事件からでした。

はたと、その時母は74歳だった！と気づきました。まだまだ、まだまだ、何が起きるか判らない…油断するな！を思う、2024年です。（執筆時点で、能登にはさらに洪水や土砂崩れがおきています。）

OB会報も、形態変えとなります。こちらもちょうど可能スタイルへ…ということですね。

この投稿…ひとまず、「無事のお知らせ」です。

令和 10 年（2028 年：次回総会開催年）までの

OB 会会費及び寄付金の納入についてお願い

会計担当 23 期 小久保光将

日頃より KUWV OB 会運営にご協力いただき誠にありがとうございます。

当会では 5 年ごとの周年行事をはじめ、現役活動への支援、会報「やまざと」の発行、小屋作業、現役との懇親会等多くの行事を継続的に実施しております。

これもひとえに多くの OB・OG の皆様から会費のご協力があったからこそ継続できたものであり、この場を借りて皆様のご協力に改めて感謝する次第です。今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

1. 会費

年 2,000 円。ただし、事務負担軽減のため、5 年間の一括払い（＝10,000 円）にて納入いただければ幸いです。会費納入有無の確認は会長（巻末）までご連絡ください。

2. 現役活動支援寄付金

- ・「現役活動支援寄付金」として任意のご寄付をお願いしております。ご賛同いただける方は 1 口 2,000 円として、任意の口数を会費に加えてお振込み頂けますようお願い申し上げます。
- ・この寄付金は、現役生の活動支援や将来における万一の事故対応の目的等で使用することとし、当面の間、積立金として一般会計とは別に管理します。

3. 納入方法

- ・今回は未納会員の方にゆうちょ銀行の払込取扱票を同封しています。この取扱票に金額、住所、氏名、ご自分の「期」を記入してご利用ください（手数料は各自でご負担願います）。
- ・銀行振込の場合は次の口座にお振り込みください。

北國銀行本店営業部 普通預金№223703 金沢大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

OB 会一般会計（単年度）報告

(円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期(05.8.31)繰越金	821,771	OB 会報(やまざと)印刷費	323,400
OB 会費納入	1,004,000	OB 会報(やまざと)郵送費	90,485
65 周年懇親会会費	806,000	現役活動支援金	100,000
預金利息	3	小屋作業関連費用	153,049
その他収入	3,000	65 周年記念総会懇親会	1,024,588
		OB 役員と現役との懇親会補助	94,300
		事務費	6,828
		支払手数料	2,200
		その他	1,200
		予備費(能登半島地震義援金)	100,000
		次期(06.9.1～)繰越金	738,724
計	2,634,774	計	2,634,774

新年に発生した能登半島地震ではOB会会員にも被災者がおられ、未だに不自由な生活を余儀なくされている方も多くいらっしゃいます。OB会からは石川県を通じて義援金をお送りしましたが、なかなか直接的な支援もできず、心配されている会員の皆様も多いことかと存じます。

今年は台風や雨の影響で現役の夏合宿が中止になるなど、新型コロナの影響がある程度安定化した状況下ですが、現役生においては思うように活動ができていないのが実態です。現役の皆さんには安全な活動を前提にしつつ、ぜひ積極的に活動頂きたいと考えております。今後とも可能な限り支援します。

- ◇住所が変わられた方は、お手数でも OB 会会長黒崎 (ichie@bronze.ocn.ne.jp) 又は事務局仲村 (jobvisionmap@icloud.com) までメール等でお知らせいただくと幸いです。
- 配送や会費納入についてのご確認も遠慮なくお問い合わせください。
- ◇OB会のホームページ（上記）をご覧ください。有志OB・OGの活動がリアルタイムでわかります。
- 原稿を投稿してみたいと思われる方はいつでも原稿を受け付けていますのでメールでOB会長まで送っていただければ幸いです。
- ◇会員の消息について把握されましたら会長までご連絡くださいますと助かります。今年11月中旬に楠屋（旧姓北畠）外茂子様（14期）の訃報がございました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。